

アセンションBOOK 7

天の川銀河の物語 NO7 2014年6月

*Peace of Galactic Cluster*

天の川銀河の物語 7

生命を生み育てる星座たち



## 生命を生み育てる星座たち 目次

第1章 ふたご座の生命の創造の仕組み

第2章 ふたご座に星に隠された遺伝子の秘密

第3章 地球人の遺伝子を活性化するマスター

第4章 地球と人類の新たな次元の扉 大犬座

第5章 ライト・ボディを活性化するクリスタル

第6章 ライト・ボディのための神殿

第7章 四大エレメントのマスターの救出

第8章 ユニバーサル・パレスの誕生

第9章 時と空間のエネルギーを生み出すてんびん座

第10章 未来を創造する一角獣座

資料 宇宙で活躍する創造主の段階

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック <https://www.k-suai.com/>

宇宙の光公式HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 <http://s-sun1.com>

アメブロ光の世界へ <http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI [yume34@k-suai.com](mailto:yume34@k-suai.com)

イラスト えんじえる (佐藤弘之)

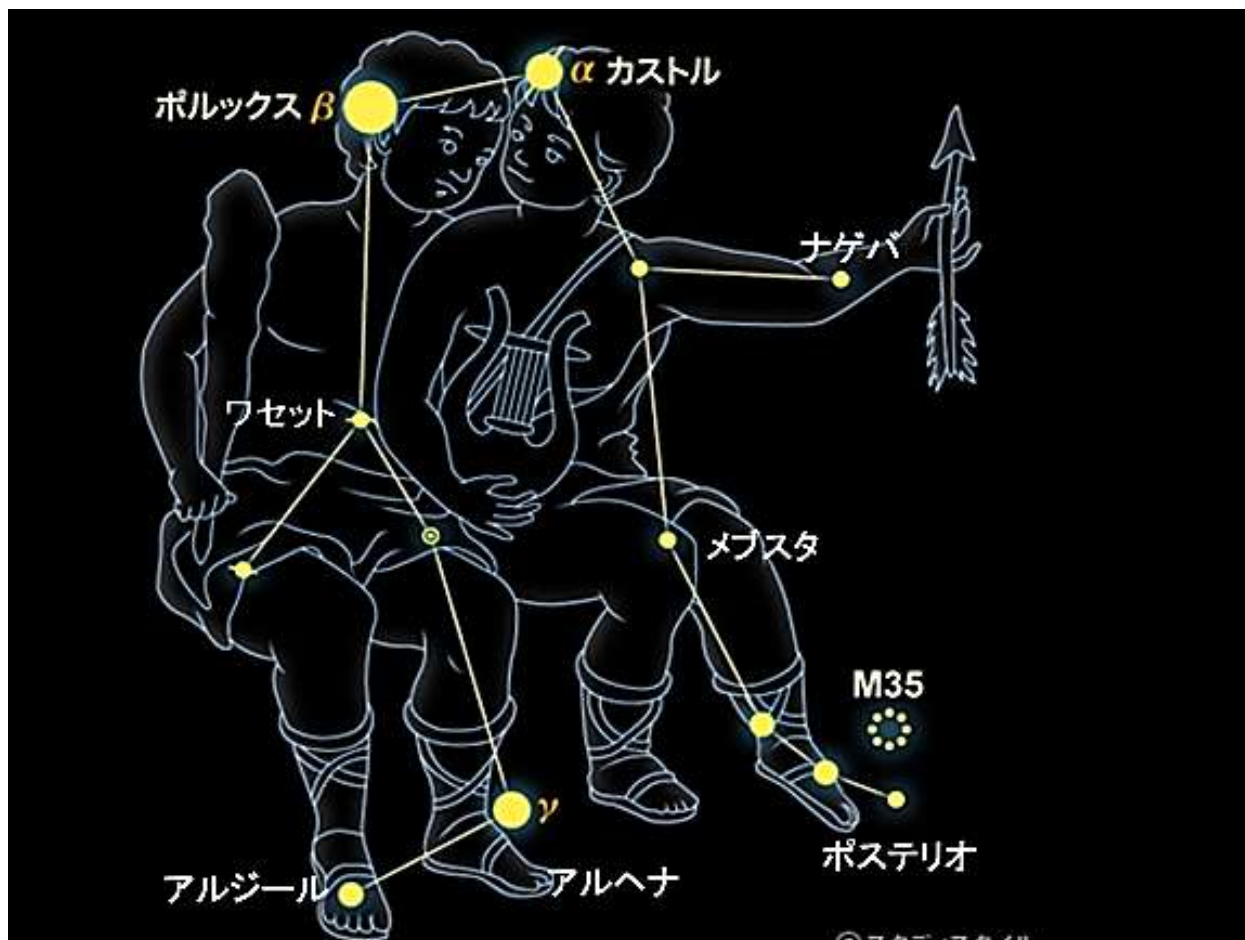
アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

星座のイラストは下記からお借りしました。

88 星座図鑑 自然学習館

[http://www.study-style.com/index\\_seiza.html](http://www.study-style.com/index_seiza.html)

# 第1章 ふたご座の生命の創造の仕組み



## PART1 生命を生み出すシステムを持つふたご座の問題

私達の新たな星のツアーは、この天の川銀河の生命創造の謎に深く関わる事になりました。ふたご座のマスターであるトート神より、私達にふたご座に来るようにとの要請があったからです。

ふたご座は、以前「ペテルギウスのダイヤモンド」のシリーズで来た事があります。その時は、オリオン座のリゲル星の闇を解き放ち、リゲル星のマスター達を助けるために、仲間を求めて各星を巡っていました。その時私達は、ふたご座に入り、トート神と仲良くなったのです。

ふたご座のポルクス星は、いるかやくじらに守られた海の星です。ここから多くの海洋生物である魚などの生物が生まれてくる星のようでした。カストル星は、大空と大地の星です。鳥たちが楽しそうに飛び回っており、トート神がこの星を統治しておられました。

この星では、空を飛ぶ鳥たちや空気中を飛び回る昆虫などが生まれ育っています。

このふたご座は、様々な星に存在する生命達の種を守り、この宇宙に生み降ろし育てる星座なのですが、私達はカストル星とボルックス星にしか行ったことがないので、他の星々にどのような秘密があるか知りたいのです。

私達はいつものように、アディティーヤの神殿からふたご座に向かって飛び立ちます。

今回は、アウディケウスを始め、さそり座やペガサス座、おおかみ座、わし座などの騎士団を始め、魔法使いのグループ、ホビット達、もちろん巨人族のスティックス達も一緒です。そして大熊座からも若い騎士達が派遣されてきましたし、新しく生まれた新種族たちも加わっています。

私達はまずトート神の待つカストル星に降り立ちました。

カストル星は、前回来たときと同じように、大きな岩山もあれば美しい緑の森もあります。

鳥たちも楽しそうに羽ばたき大空を舞っています。

大空を飛ぶ鳥たちの甲高い鳴き声が、私達にはとても心地よい緊張感を作り出します。

トート神はゆったりとした白いローブを身にまとい、私達の事を嬉しそうに迎えてくれました。

「TAKESHIさん、そして宇宙の光の皆さん、天の川銀河の騎士団やマスター達、皆さん以前に比べて大きく成長なさったようですね、新たな能力やパワーが目覚めてきていることが私達にもわかります。

今回皆さんにお願いしたい事は、ふたご座に時空の歪みが発生してバランスが取れていない星がいくつかあるのです。

そのために、ふたご座の役割である生物の誕生と成長を司るためのシステム（生命の種）の働きに支障が生じ、自分達のプログラムとは、異なる生物が生まれ始めている事を解決していただきたいのです。

また外部的な要因として、何らかのエネルギーによって引き起こされた歪みやひずみが、生物の創造のシステムにも悪い影響を与えている可能性があります。」

「それは大変なことが起きているようですね。」と私も答えます。

「そうなのです。

ふたご座から生み出されてくる生物は、本来自然と調和するようにプログラミングされています。

しかし生物は、生まれた星や育っている星の環境やそこに住む人達の意識や思考にも大きな影響を受けるために、その星の環境の悪化や人々の思考の過ちや歪み、あるいは人々の感情のエネルギーによって、本来のプログラムとは異なる生命に進化していく可能性もあるので

す。」

トート神は、私達にいくつかの生命体のイメージを見せてくれましたが、私達には、何かアンバランスな生命体のように感じられます。

「そして、その星以外の場所からもたらされたネガティブなエネルギーも、生命進化のプログラムに影響を与え、本来とは異なる成長の仕方をさせる時もあるようです。

その結果、自然界の仕組みの中うまく適応することができず、自然界のバランスを壊していく物や自然界を支配しようとする物も出てくるのです。

私達の課題は、そのような事が起こらないようにふたご座の星々の歪みを正すことなのです。」

といっても、私達には、話が壮大すぎてどこから手を付ければ良いか分かりませんので、次の3つの事を行っていく事にしました。

○ふたご座の中に起きている歪みや問題を調べ解決する事

○ふたご座の星の生命創造の仕組みが、ネガティブな影響を受けないように守る。

○ふたご座に関わってくる他の星々のネガティブなエネルギーを調べ解決する。

後は、トート神と共に、行動しながら解決してゆくこととなりますが、私達には、生命が創造される仕組みを学ぶ絶好のチャンスとなりました。

## PART2 ふたご座とトート神の課題

私達はまずこのふたご座の現状を調べるために、シェンロン、わし座騎士団、ペガサス騎士団を中心として偵察隊を各星に送り込みました。

このふたご座は、ボルックス星とカストル星を中心として2つの系列に星が分かれています。ボルックス星の系列では、ワセット星とアルジール星、カストル星の系列では、ナゲバ星とメブスタ星に、星のひずみや時空の歪みなどの問題があるようですこれらの星を中心にして調べてもらいます。

宇宙の魔法使いも、このふたご座の問題を調べているようです。

「TAKESHIさん、私も以前から気になっていたのですが、ふたご座自体がサイキック・アタックを受けており、それにより創造主から降りてくる光が少なくなっていることも、その原因の一つのようです。

実際、カストル星のクリスタル・ドームに入ると、ドームの中に何かのエネルギーが渦を巻

いて、女神とマザー・クリスタルを混乱させています。」

私は、闇のエネルギーを調査しているマスターの 1 人、ホルス神にも来てもらい意見を聞きます。

「ふたご座を取りまいてこの渦巻きは、感情によって生まれたエネルギーの渦ですが、私が調べたところ、暗黒の世界からふたご座の方にやってきたエネルギーでもあります。このエネルギーを解消するためには、ふたご座の持っている感情的なエネルギーを浄化する必要があると思われます。」

トート神に、この件について伺うと、

「皆さんがおっしゃる事には、私も心当たりがあります。ふたご座の星はもともと友好的な星達でしたが、ボルクス星とカストル星の系列の星同士で争いがあったことがありました。各星の叡智ある存在が生命の種を育てているのですが、お互いが自分達の事を自慢するようになりました。それが、競争意識を生み、お互いが相手を非難するエネルギーを持ち始めたのです。それが星々のシステムの正常な働きを妨害し始めた可能性もあります。」

ホルス神は、さらに続けて言います。

「これはふたご座だけの問題ではなく、他の星からやってきたエネルギーか存在が、ふたご座で働いているホビット達に争いの種を植え付けた可能性もありますね。おそらく何かの目的があったのでしょうか。」

私は、グレート・ゴッデス達に問いかけます。

「皆さんの中で、このふたご座に争いのエネルギーを持ち込んだゴッデスはいますか。もしいらしたら、その目的を教えてください。」

するとクラシャー連合を裏で操っているシバ神があらわれました。

「ふたご座の争いのエネルギーは、私が送り込みました。ふたご座の星の人々は、自分達が生命の創造を行っているという事に傲慢になりはじめ、その使命の神聖さを忘れてしまっています。ふたご座の人々だけでなく、トート神にもふたご座の調和の大切さを再認識してほしいのです。」

そして、星同士のつながりや均衡の大切さを取り戻し、ふたご座の調和を実現できたら、それはふたご座の星々を更なる高い次元へと導くことでしょう。

それは、平和的な感情や相手を大切に思う感情を持つ事を実践する事であり、それらのエネルギーが、皆さんにどのような影響を及ぼすか、学んでほしいのです。

そして TAKESHI さん達にも、宇宙の仕組みを知り、さらに能力を高めるためにこのふたご座をさらに高い次元に導いてほしいのです」

私達は、おそらくこのふたご座の次元上昇が、グレート・ゴッデスによって仕組みられた私達への試練であることも理解しました。

そう分かれば、問題はありません、前に進むだけです。

## PART2 カストル星の渦巻きと次元の上昇

ふたご座に起こっている事の意味が理解できましたので、私達はふたご座の再生に向けて仕事を始めます。

まず魔法使いや天の川銀河の大天使を中心に、ふたご座全体に調和のための大きな神聖幾何学を描いてもらいます。

そして、グレート・ゴッデス達にもお願いして、その光をふたご座に呼び込み、不要なネガティブなエネルギーを浄化してもらいます。

次に私達は、カストル星のマザー・クリスタルのもとに行くことにしました。

カストル星のマザー・クリスタルは、渓谷の間に隠されています。

カストル星の活性化を行うために、ユニバーサル魔法使いが神聖幾何学を描き、私達は虹のワンドで光を送ります。

更に、私達は「生命の水」をクリスタルに入れ、ゴッデス達の光をカストル星に導くと、カストル星は光輝き次元上昇していきます。

カストル星とボルックス星は、ふたご座の頂点にある星として、上から降りてくる創造主やグレート・スター様たちの光をしっかりと受け止め、そのエネルギーを調整してふたご座の各星に送る働きがあります。

私達は、ボルックス星に移動して、ボルックス星のマザー・クリスタルをしらべました。

こちらは、さほど問題がないようですので、私達はワセット星に向かうことにしました。

## PART3 生命を創造する魔法使いの過ち

ワセット星に着くと、星の自然は、枯れ果ててしまい荒涼とした光景が広がっています。

私達が、クリスタル・ドームの中に入ると女神は眠りについていました。  
どうやらネガティブなエネルギーを大量に送られたことにより、自然が枯れてしまい女神の意識もなくなったようです。

私達は、ワセット星を再生するために、地表に出て星の創造を司る女神からもらった「創造のボックス」を開きます。

「創造のボックス」とは、星が炎の塊であった時から、大地や海が生まれ、植物が育ち動物が活動し始めるといったような星の創造過程を行う為の魔法の箱です。

生命が存在しないような環境の星で使うと、生命が存在できるような星へと変化させることができます。

私は、侵略戦争や大災害などによって荒廃した星を再生するときこの「創造のボックス」を開き、星にエネルギーを与え、生命達が再び活動できるような状態の星に戻してあげます。

私達は、ワセット星の地表でこの「創造のボックス」を開きました。

創造のエネルギーがボックスから流れだし、星の地殻が再び動き始め、雨が降り自然が再生していく準備が始まります。

やがて、大地から植物たちが芽をだし、美しい自然が戻ってくることでしょう。

私達が、クリスタル・ドームに戻ると、女神はおぼろげながら目覚め始めています。

クリスタル・ドームの活性を行うとともに、マザー・クリスタルを目覚めさせ、星の次元上昇に入ります。

星にグレート・ゴッデス達の光を呼び込み、星を輝かせていきます。

カストル星とボルックス星に助けをもらうように、ワセット星の次元が上がっていきました。

女神も意識を取戻し、星が再生されていく事を喜んでいます。

そして、女神はこの星の魔法使いたちに被害がなかったか心配していることを私に伝えてきます。

私達は、地表に出て魔法使いを探すことにしました。

騎士団の一人がすぐに、一人の魔法使いを私達のもとに連れてきました。

彼はこの星の科学者兼魔法使いで、生命のシステム（種）を管理し運営する役目を担っています。

しかしどうも様子がおかしいので、彼が行ってきたことを詳しく問いただしてみました。

すると、彼は本来のプログラムとは異なる生命を生みだすことに興味を持ち、本来の生命とは違う生命システムを作って他の星々に送っていたようです。



星が次元降下を起こすとさらに次元のひずみから生まれてきたエネルギーにとらわれ、科学者としての理性を失い、興味だけで、このような実験を続けていました。

しかし、様々な生命が生まれ、星の自然環境などに対して破壊的な働きをしたり、星の生態系を混乱させる事態が生じ、自分自身でも収集がつかなくなり困っていたようです。

その話を聞いたトート神は青ざめています。

「皆さん、本当に申し訳ありません。

ふたご座は本来、私がしっかり管理しなければならない星にも関わらず、このような科学者を生みだしてしまったことにどのようにお詫びしたらよいのか。

きっとシバ神も、このような愚かなことがふたご座で引き起こされていることに気づき、私達がしっかりと考え方を変えるようにするために、このふたご座にネガティブなエネルギーを送り込んだという事が、良くわかりました。」

今回も一緒にきている葵さんや美緒さんも、この科学者を見て軽蔑しています。

「きっと、動物たちもいろんな操作を加えられて実験材料にされたのね、なんてかわいそうなことでしょう。」

遥さんは、この科学者を怖い顔で睨みつけています。

私はこの科学者をどのようにしたらよいか、ユニバーサル魔法使いに尋ねました。

「科学者として興味を持つのは良いが、自分本位の考えで生命のシステムを扱うのは間違えている。

それは、あまりにも危険で愚かな行為だ。

しかし、彼は本来、優秀な科学者でもあるので再教育をしよう。

私達が預かりましょう。」

私は、この科学者にグレート・イエスから頂いた「愛の結晶」と「叡智の結晶」を心の中にいれて、2度とこのような過ちを繰り返さないように諭しました。

魔法使いも、私達に謝罪します。

「本当に、私は間違っていました。

自分の好奇心に操られて大変な失敗をしてしまいました。」

彼はうなだれたまま、ユニバーサル魔法使いの弟子たちに連れられて去っていきました。

やがて、次元上昇したワセット星に、10名ほどの魔法使いが現れました。

「私達は、ボルックス星が受け取った創造主のエネルギーを受け取り、そのエネルギーを利用して新たな生命創造に関わっています。

そして、創造主のエネルギーを他の星々にも流し、ふたご座の均衡を保つ事を行っています。

しかし、最近、私達では、処理できない程の荒々しいエネルギーが流れてきて困ってしまし

た。

そのおかげで、この星も次元降下して、私達はこの星にいたることができなくなりました。」

「すると、先ほどの自分勝手な研究を行っていた愚かな魔法使いも皆さんの仲間だったの？」と美緒さんは尋ねます。

「そうです、彼は私達の忠告も聞かず、本来あってはならない事をしてしまいました。彼が作り変えたシステムは、私達が気付く限り元に戻したのですが、いくつかのシステムは、プログラムの変更を巧妙に隠していた為、私達は気づきませんでした。そのためにいくつかの星々で、本来とは異なる生命が生まれ、星の人々に大変なご迷惑をかけてしまいました。先ほど、この星が次元上して、私達も星に入ることができるようになりましたので、急いで戻ってきました。」

「すると、あの魔法使いは捕まり、私達と出会えた、という事ですね」美緒さんが答えます。

「その通りです、皆さんがこの星の次元上昇をしてくださったのですか、本当にありがとうございます。私達はすぐ研究所に戻り、今迄の過ちを正し達とします。」

私は彼に質問をしました。

「あなた方の研究を指導しているのはどなたですか。」

「私達の研究は、青い光のマスターと呼ばれている方々から、指導を受けております。」  
どうやら、彼をとおして生命創造の技術に関わっているのもマスターA のようです。  
そこまで言うと、彼等は研究所に急いで戻って行きました。

私は、マスターA を呼び出し、今回の状況について報告を行いました。

「TAKESHI さん、ここでも皆さんとお会いできましたね。  
そして彼らを研究所に戻してくださりありがとうございました。  
私達は、この星の科学者達を再教育するとともに、この星の生命創造のシステムが悪用されないように、さらに高度なものにしたいと思います。」

そしてマスターA は、生命の創造をおこなっているシステムを私達にわかりやすいように見せてくれました。

本来は、様々な光が、この世界の中に流れ込み、様々な色と形の光に変容されていくのですが、地球から来た私達のために、生命創造の工場の様に見せてくれるようです。

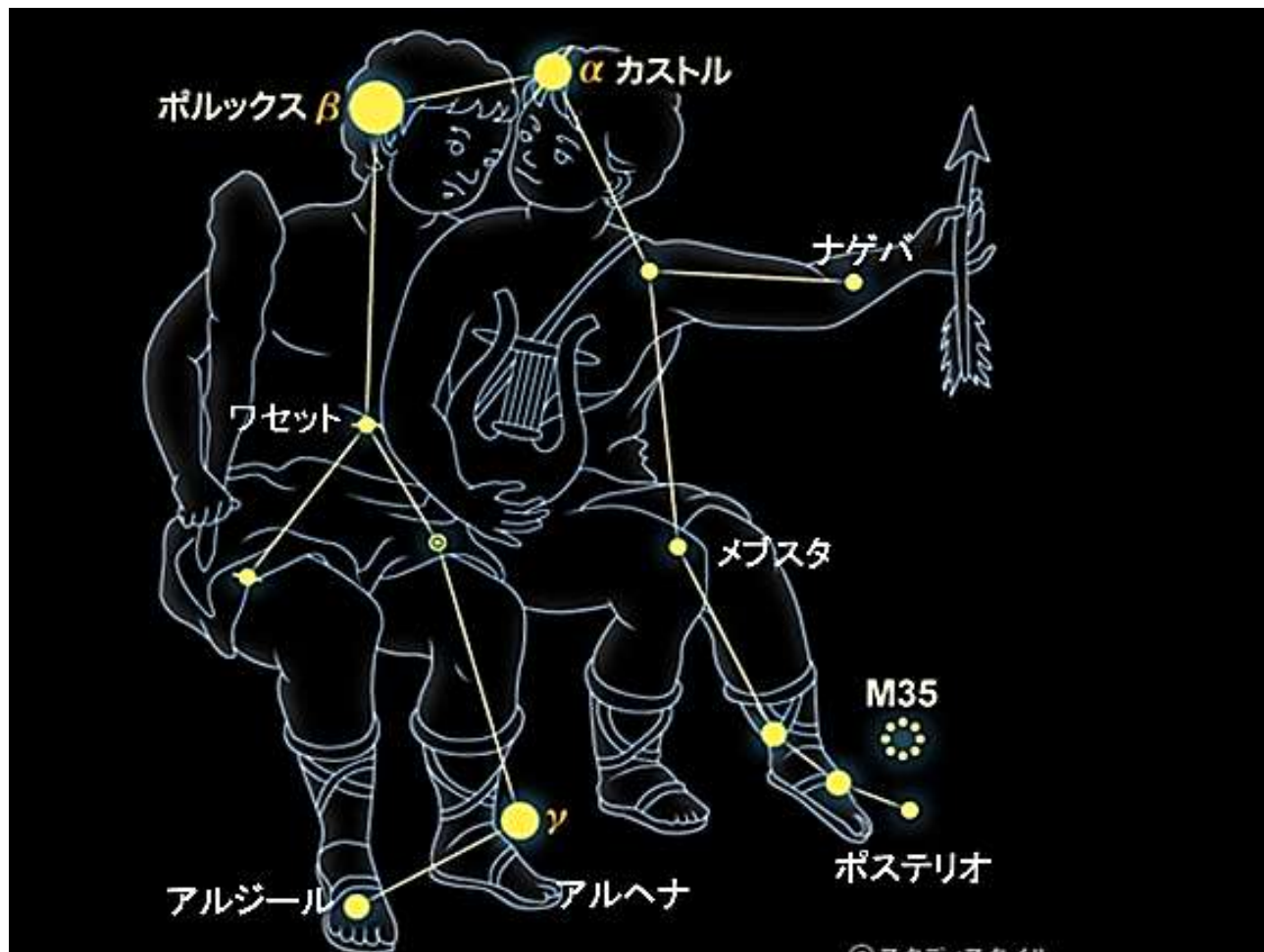
建物の中に入ると、生命を創造するシステムに基づく機械たちが並んでいます。

工場の中に続く通路を歩いていくと、まるで何かの製造工場の様に、レールの上に乗った種があり、光を融合していくうちに、特定の種族の種として大きくなり、この物質世界に生みだされていくようです。

またこの工場の下には、他の星々につながる通路があり、これらの種をドラゴン達がほかの星に運び、そこで種から生命を生みだしていくようです。

まさに深淵なる宇宙の秘密に触れることができました。

## 第2章 ふたご座の星に隠された遺伝子の秘密



### PART1 DNAを形作る星達

今の星のツアーでは、ワセツ星を終えてアルヘナ星とアルジール星に入ることになります。ワセツ星では、私達が大熊座であった宇宙工学の専門家であるマスターAのグループと再開しました。

そして、生命の誕生にとって重要な遺伝子の研究も同じマスターAの指導の下に行われていることを私達は知らされたのです。

ふたご座も大熊座と同じようにそれぞれの星にマスターA達の指導の下に研究所があるようです。

しかし、シバ神の判断により、このふたご座は次元降下してしまいましたので、私達はその原因をさがし、ふたご座の星々を再度立て直さなければなりません。

そうしなければ、天の川銀河にとって、新たな生命がきちんとした形で生まれなくなってしまうからです。

今日は、ワセット星を終えてアルヘナ星に入る事にしました。

トート神も一緒にアルヘナ星へと入りますが、そこはとても静かな白い世界の様に見えます。通常の星の状態ではないことから、どうやら星の資源などを保護するためにシールドが張られているようです。

トート神に様子をうかがうと、どうやらこの星には大切な資源があり、その資源を他の星から送られてくるネガティブなエネルギーなどによって損なわれることがないように、白いシールドを張り、星の内部を高い次元に保っているようです。

確かに白いシールドの下には、大きな貯蔵タンクのような物がいくつも並んでいる様子が見られます。

私達は、トート神の案内で、星の内部に入ることができました。

星には大きな損傷はなく、次元降下もあまりみられません、マザー・クリスタルは少し元気がないようです。

この星のエネルギーそのものが活動を抑えられているようにも見えます。

私達は、マザー・クリスタルに「生命のしずく」を入れてクリスタルを輝かせます。

私達は次に、偵察をしてくれた騎士団から問題があると報告されているアルジール星に入ることにしました。

アルジール星に降り立つと、私達はこの星のマスターを呼び出しました。

彼もマスターAのグループのメンバーから指導を受けている科学者の一人のようです。

マスターはこの星の役目について話してくれました。

「このアルジール星では、生命のDNAを作り出す仕事をしています。

隣のアルヘナ星からDNAのもととなる資源を貰い受けて、それをDNAのシステムに作り直しているのです。

私達の研究は、生命のDNAを構成することで、生命は物理世界に存在する事ができるようになるため、生命にとってはなくてはならない役目を担っている事になります。」

私は今回の問題で、施設がしっかりと稼働していないような感じを受けましたのでその事を質問しました。

「実はその通りです。

このDNAの形成を行う施設に大きな問題が発生しました。

一つは、施設の動力源である4大エレメントが不足しているということです。

恐らくりゅう座のトラブルによって、天の川銀河の各地で4大エレメントが不足して、システムが十分に稼働していないところが出てきているのかもしれませんが。

そして、もう一つは施設で働いていた星の住人達が、十分に稼働しない施設に見切りをつけて出て行ってしまったのです。」

DNA を構成し作り出すことで、多くの生命を物質世界に生み出す大切な施設であるにも関わらず、施設の動力源となる4大エレメントが不足しているうえに、それを動かす人達がいなくなったのでは、これからたくさん生みだされていく生命達が大変なことになります。

## PART2 DNA の形成を行う施設の再稼働

私達は、マスターと共にその施設に向かいました。

DNA を作り出す施設の入口は、洞窟の大きな岩の間に隠されているようです。

入口から施設の中に入ると、アルヘナ星と同じような大きな貯蔵タンクがあります。

このタンクは、DNA を作り出す資源を入れるためのものですので、こちらは問題がないようです。

施設の中に入ると機械がたくさん並んでいますが、きちんと動いていないようですので、私達はマスターA のメンバーにも来てもらう事にしました。

私が、突然マスターA のメンバーを呼び出したので、この研究所のマスターも驚いています。

「TAKESHI さん、皆さんがこの研究所に入ってくれたおかげで、私達もここの施設の状態をチェックすることができます。」

マスターA はこの施設の機械をしばらく調べています。

「この研究所の機械はとても古くなっているので作り変えが必要ですな。

さっそく私達のメンバーを呼んで、新しい装置に作り変える為の修理に入りましょう。

しかし、この施設の機械では、DNA を生成するときには4大エレメントのエネルギーが必要です。」

私達は、マスターA と共に、この星の動力施設に入ります。

ここは、4大エレメントのパワーを受け入れ施設の動力源とするほかに、DNA 形成の過程においても、この4大エレメントを必要としているようです。

「TAKESHI さん、あなたは天の川銀河の4大エレメントの貯蔵庫がどこにあるかご存知ですか？」

マスターA が私に尋ねますので、私は、エルエルにお願いして、りゅう座の4大エレメントのエネルギーをこの星に導いてもらうことにしました。

しばらくすると、りゅう座のエLEMENTの貯蔵所で作った4大ELEMENTのエネルギーを、この施設に繋いで4大ELEMENTが十分に機能するようになりました。

マスターA達が、施設の機械を調整するとやがて施設の動力が戻り機械が動き始めました。

次はこの星の住人たちをこの施設に戻す必要があります。

マスターが、施設の働き手であるホビットたちを呼び寄せますが、隠れていてなかなか出てきません。

私は、ホビット達が、大好きなお菓子やクッキーを出して見せると、ホビット達はワッと集まってきます。

彼らは、おいしい食べ物に弱いのです。

私は皆においしいお菓子をあげるから村に行って、仲間を連れてくるようお願いすると、ホビット達はお菓子を片手に走り出していきました。

私達は、その間にこの星のクリスタル・ドームに入り、星の生命力の調整を行います。

この星のマザー・クリスタルもエネルギー不足らしく、輝きが足りません。

いつものように、「生命のしずく」やクリスタルの炎の種などをマザー・クリスタルに入れると、クリスタルは大きく輝き始めました。

さらにグレート・ゴッデス達の光を星に呼び込み、星の次元上昇を行います。

アルヘナ星が、グラグラと揺れて輝き、元の次元へと戻っていきました。

私達は、地表に戻ると、ホビット達が集まっていますので、みんなにお菓子を配ります。

そして、彼らがお菓子を楽しそうに食べている間に、ユニバーサル魔法使いにお願いして、ホビット達に光を送り、彼等の中から、シバ神によって送り込まれたネガティブなエネルギーを抜き取っていきます。

これで彼らも、今まで以上に素晴らしい仕事を行ってくれることでしょう。

私は、マスターに箱いっぱいのお菓子を渡し、このホビット達に時折ご褒美を上げてくれるようお願いしました。

次に、私はこの星のドラゴンを呼び出しました。

工場の機械も新しくなり、4大ELEMENTのパワーも順調に供給されることになり、またホビット達も以前よりパワーアップして戻ってきました。

これから、この施設が稼働し、今までの遅れを取り戻すように働かなくてはなりません。

そうすると必要になるのは、アルヘナ星の資源をこの星に運ぶドラゴン達の働きを高めることです。

私は、運搬係のドラゴン達を集めると「生命のしずく」でドラゴン達をパワーアップさせていきます。

これで、アルジール星の施設は今まで以上の機能に戻りました。

私達は、アルジール星の施設を整えると、この系列の中心となるボルックス星へと戻ってきました。

そしてボルックス星の女神の力も借りて、ボルックスの系列の星々をさらに次元上昇させる為に、ボルックス星のクリスタル・ドームに入り、マザー・クリスタルに「星のしずく」と「生命のしずく」を与えるとともに、4大エレメントの光を呼び込み、星の次元上昇に入ります。

このボルックス星が次元上昇していくと他の星々も合わせて次元上昇していきます。

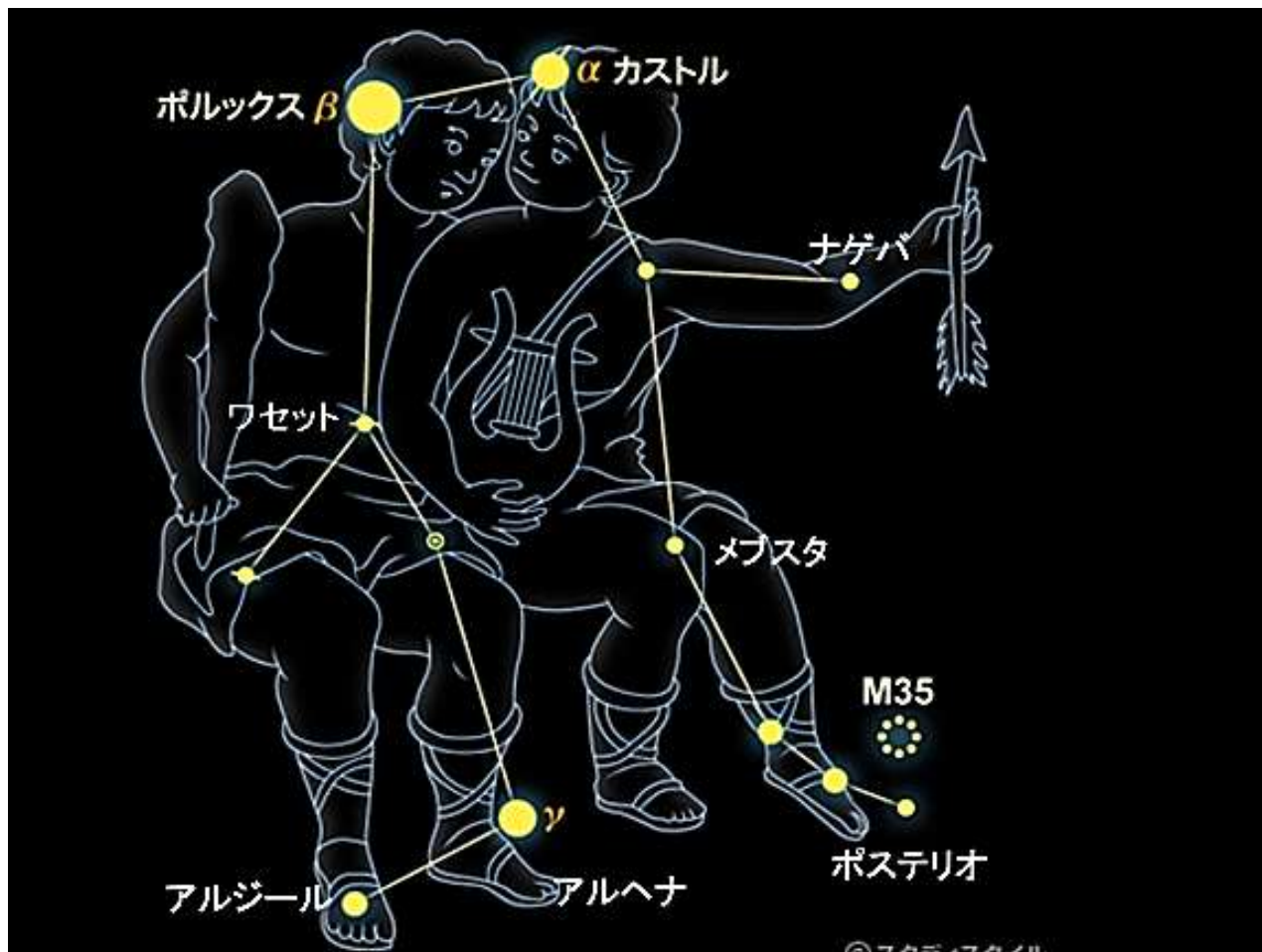
すると思いかげずふたご座のボルックスの系列の星々を守るスター・ドラゴンが目覚めてきます。

どうやらこのふたご座には、ボルックス星の系列とカストル星の系列に分かれて、スター・ドラゴンが存在しているようです。

こちらのスター・ドラゴンは、ボルックス星が水の星だけに、水のエレメントとも深い関係にあるようです。



## 第3章 地球人の遺伝子を活性化するマスター



### PART1 水のドラゴンを奪い合うナゲバ星

前は、アルヘナ星とアルジール星を巡り、アルヘナ星の遺伝子を作成する装置の修理と星の次元上昇を行いました。

それによってホルックス星からワセット星、アルヘナ星、アルジール星のラインの星々の働きが整い、ホルックス星を頭とするスター・ドラゴンが生れてきました。

今日は、カストル星からナゲバ星とメブスタ星、ポステリオ星を回る予定です。

私達はまずカストル星に降り立ちトート神と合流してツアーを開始しました。

最初にカストル星の下にあり、ナゲバ星とメブスタ星の分岐点にある星に降り立ちます。

星に降り立つと荒涼とした大地が広がり、あまり活性化した星ではありません。

マスターもホビットの見えるマスターがぽつんと立っています。

私達はこの星のクリスタル・ドームに入りましたが、クリスタルの輝きもなく色あせて見えます。

私は、クリスタルに「生命のしずく」をいいて、仲間達がクリスタルに向かって光を入れている間に、そばに立っていた女神と話をします。

「この星はナゲバ星から送られてくる水のエLEMENTを調整してメブスタ星へと送る働きをしているのですが、現在ナゲバ星から水のエLEMENTが十分送られてこないなので、自分達の星も水のエNERギーが不足しているのです。

水のエLEMENTは、DNAの形成にとってはとても重要なので、ナゲバ星が再生してくれることを祈っているのです。」

私達は、この星にゴッデス達と4大ELEMENTのマスター達の光を呼び込みます。

そして星の生態系を整える働きを持つゴッデス・エオリアと河川の女神である巨人族のスティックスにお願いして、この星に水の循環をもたらし、星の自然生態系の再生をお願いしました。

私達は、急いでナゲバ星に向かいます。

騎士団からの報告によると、この星では、星に住む人たちの間で争いが起きているようで、すぐ星にはいるよりは、最初にこの星に光のマカバを作り、星に十分な光を与える事で、争いを終結させた方がよさそうです。

ナゲバ星に光のマカバを作りゴッデス達の光を呼び込みます。

争っている人達が、その光に驚いてにげだせるように、光のマカバに出口を作り、そこに騎士団達が待ち構えて彼らを捕まえ、争いの原因を調べます。

私はホルス神にも出てきてもらい、この星の問題を聞いてみたところ、この星の近くに生れたブラックポケットから送られてくるネガティブなエNERギーが影響しているようです。

ブラックポケットとは、創造主の光がいきわたらない場所の事です。

闇の世界とつながっていることもあり、時々ドラゴンやマスター達が、宇宙を航行中にこの中に捕らわれてしまう事があります。

私達は、最初にそのブラックポケットに向かい、ユニバーサル魔法使いやペガサス騎士団、わし座騎士団、ドラゴン達と共に暗い穴の底に降りていきました。

するとそこには大きなドラゴンが横たわっていますので、すぐにエルエル達が走りより救助しました。

私達はブラックポケットに落ち込んでいたドラゴンを助け出すと、ブラックポケットを光で満たし埋めていきます。

助け出されたドラゴンは、ナゲバ星の水のエLEMENTのドラゴンようです。  
ナゲバ星で水を欲しがる人たちが争い、このドラゴンを奪いあっているときに、次元の裂け目ができ、その中に落ち込んでしまったようです。

オリオン星雲の水のエLEMENT・ドラゴンもそうでしたので、きっと水のエLEMENT・ドラゴンを巡る争いというのは、この宇宙のいたるところで起こっているのかもしれませんが。  
私達は、水のドラゴンを助け出すと、グレート・ゴッデス達にお願いして水のエLEMENT・ドラゴンを癒してもらいます

私達は、ナゲバ星に仕掛けた光のマカバの出口のところに戻りました。  
すると数名の叡智ある存在達が、檻の中に入ったまま天の川銀河の大天使達の光を浴び、そのネガティブなエネルギーを浄化してもらっています。

彼らは、このナゲバ星の住人で、水のエLEMENTの分配を行う仕事をしていたようですが、水のエLEMENTを自分達のものにすることで、ナゲバ星を支配したかったようです。  
水のエLEMENTは、それを飲むことによって生命力を活性化することができるので、みんなが欲しがっているとのことでした。

私達は、水のエLEMENT・ドラゴンを連れて、ナゲバ星に降り立ちました。  
この星のマスター達も、水のエLEMENT・ドラゴンが降りて来た様子を見て、大喜びで集まってきました。  
「私達は、水のエLEMENT・ドラゴンが、私達の星から消えてしまったのは、神々の怒りに触れてしまったからだと考えていました。  
皆さんと共に、水のエLEMENT・ドラゴンが戻ってきてくれたという事は、皆さんは神々の使いなのですね。  
本当にありがとうございます。」

一生懸命に頭を下げるマスターにいろいろなことを説明するのは大変なので、スティックスにお願いして一芝居打つ事にしました。  
スティックスは、体を大きくしてこの星の人達に大声で諭します。

「この星の者達が、水のドラゴン達を自分の物にしようと争ったために、神々は水のドラゴンをこの星から奪い去った。  
しかし、お前たちに最後のチャンスをやろう。  
これから水のエLEMENTと共に誠実に働くがよい。  
もし再び争いなどを起こしたら、この星は神々の力によって滅ぼされるであろう。」

星の人々はスティックスの姿をみて恐れをなして、地面に額をつけ、恐怖で震えています。

彼等は、まだ高い叡智の段階にある訳ではないようですが、神々に対する信仰心は強いようなので、このように言うておけば、しばらくは、水のドラゴンや水のエレメントを奪い合う事はしないでしょ。

一生懸命、スティックスにひれ伏す住人をみて、私達の騎士団も笑っています。

私のすぐ後ろで声がしましたので振り返るとマスターAの1人です。

「TAKESHIさん達も面白いことをしますね。

天の川銀河の星の人々は、私達の理論が通じない星が多くて困っていたのですが、こういう方法もあるのですね、大変勉強になりました。」と笑っています。

マスターAは、この星にある水のエレメントを呼び込む装置を見に来たようです。

その装置は山の頂のようなところにありますが、壊れていて使い物になりません。

やはりこの装置も旧式のようにバージョンアップが必要なようです。

マスターAは、先ほどの私達の芝居を思い出して、笑いながら修理をしています。

私達はその間にナゲバ星のクリスタル・ドームにはいります。

この星のマザー・クリスタルはまだしっかりしているようですので、次元上昇の準備に入ります。

ゴッデス達の光と4大エレメント・マスターの光を呼び込むことで、この星も輝き始め次元が上がっていきます。

私はゴッデス・エオリアにお願いして水の循環と生態系を整えてもらいます。

水のエレメントを呼び込む装置の修理も終わったようです。

この星から、水のエレメントが新たに流れ出していく事でしょう。

## PART2 生命エネルギーを作り出すメブスタ星

私達はナゲバ星からメブスタ星へと移ります。

メブスタ星は、ナゲバ星から送られてくる水のエレメントをポステリオ星に送る働きをしているようで、星自体には何の問題もありませんので、クリスタル・ドームに入り、光を呼び込んでこの星の次元上昇を行いました。

私達は最後のポステリオ星に向かいます。

星のマスターを呼び出すと、最初は怪訝そうな顔で私達を見ていましたが、トート神の姿を見るとほっとしたようです。

「トート神よ、お久しぶりです。  
今日は、いったいどうしたのですか、このグループは一体どのようなグループなのですか。」  
彼は、トート神とは仲が良いようです。  
しばらくの間、トート神とこの星の状況や私達の事について話をしているようです。

私達はその間に、星の様子を見渡していると、不思議なことに気づきました。  
美緒さんが、シェンロンに乗って星を見まわってきてくれたのですが、この星は、星全体を覆うようなシールドを張っています。

トート神と話し終わったマスターにそのことを尋ねてみました。  
「TAKESHI さん、そして仲間の皆さん、大変失礼しました。  
トート神から皆さんの事をお聞きして、私も大変安心しました。  
この星では、DNA ではなく生命の源であるエネルギー体を作っています。  
DNA が生命体に吹き込まれる前の生命エネルギーを形成することが、この星の目的であり、その目的のために私達は働いているのです。  
ところが、しばらく前から、この星にも、今までにないネガティブなエネルギーが襲ってきました。  
私達は、そのエネルギーがこの星に入り込まないように、シールドを張ってこの星を守っています。  
ふたご座全体の状況が良くなれば、この星のシールドを解き放ち星の活動を再開したいと思っていますのですが。」マスターは言葉を濁します。

私達は、ふたご座をくまなく回り、多くの星の問題を解決して次元上昇を行ってきたことを伝えました。  
そして、マスターにこの星のシールドを解き放ち、星の活動を再開するように伝えました。

するとマスターは、少し困った顔をしています。  
「マスターよ、どうしたのですか、この星のエネルギーの活性は私達も手伝いますし、皆さんを指導しているマスターA のグループも機械の修復などを手伝ってくれますので大丈夫ですよ。」と、私は言います。

「TAKESHI さん、実はお恥ずかしい話なのですが、私がこの星にシールドを張ったために、星の次元が下がってしまって、自分で星のシールドを外すことができなくなったために、皆さんが来る事を待っていたのです。」これには、メンバー全員大笑いです。  
私は魔法使いと騎士団達にお願いして、このシールドを外してもらいました。

私達は、この星のクリスタル・ドームに入りました。  
クリスタル・ドームの中は、とても静かで動きがありません。

マスターがシールドを張ったことにより、この星の動きが止まってしまい女神達も眠りについてしまったようです。

遙さんが女神の事を心配して「生命のしずく」を飲ませてあげました。  
すると女神も目を覚ましてきたようです。

私達はこの星を目覚めさせ次元上昇するために、マザー・クリスタルを活性化し、グレート・ゴッデス達の光を星に呼び込みます。

星の上空には、ユニバーサル魔法使いが描いた神聖幾何学が輝いています。

やがて、星が光輝き、女神も元気になってきます。

星の地表に戻ると、星の次元も高まり植物達も育っている様子がうかがえます。

先ほどのマスターも、星の地表に戻り、恥ずかしげに喜んでいます。

この星のホビット達も戻ってきましたので、この星の生命エネルギーを作り出すための施設へと向かいます。

私は施設を見て、修理が必要そうなのでマスターAに来てもらい修理とバージョンアップを依頼しました。

これでこの星の働きも、もっと盛んになるでしょう。

私達は、この2つの星を活性化することで、カストル星の系列もその働きを取り戻していった事をトート神から知らされました。

次はカストル星を頭とするドラゴンを目覚めさせることとしました。

ゴッデス達に光を送ってもらい、祈り始めると、たくましい体をしたスター・ドラゴンが生まれてきました。

すると先日姿を現したボルックス星を頭とする星々の系列のスター・ドラゴンも近くによってきました。

そして、2つのドラゴンにゴッデス達の光を送ると、一つの大きなスター・ドラゴンが生まれてきます。

恐らくはもともと一つのドラゴンだったのでしょうが、ふたご座の星の人々が反目しあうようになってから、2つに分離したのかもしれない。

現在は大きなスター・ドラゴンとして存在しています。

これで、2つの星々の系列の人々も仲良くなり、シバ神の目的も果たせるようになることでしょう。

### PART3 ふたご座の高次元にある「遺伝子の貯蔵庫」

この日の星のツアーも、ふたご座のツアーですが、この日は、アディテイヤ様からも、ふたご座の大切な秘密を開示しますと伝えられ、そのための道案内のマスターも、創造主の神殿で待っていてくれました。

ふたご座のカストル星からワセット星に入ります。

そこで道案内のマスターから、このふたご座の中心、ちょうど豎琴の位置に上の次元に入る扉があるので、そこから上の次元に上がるように言われました。

その場所は、見えざる創造の世界とこの現実の創造された世界の狭間にあるような世界で、創造の世界から送られる生命のシステムを、目に見える世界に作り出していく場所のようです。

たくさんのタンクのような貯蔵庫が並んでいて、魔法の力で、その中に多くのスピリットたちの遺伝子が蓄積されているようです。

そのスピリットとは「叡智ある存在の本質・神聖さ」で、光ある存在やマスター、女神のみならず星や宇宙の本質であるスピリット達の遺伝子もここに保存されているようです。

この遺伝子は、人の目には光の様に見えるようですが、ゴッデス達からは、らせん状の遺伝子構造に見えるようです。

私達が、細胞の中にあるDNAの遺伝子構造を見ているのと同じように、スピリットもらせん状の遺伝子構造からできています。

そして、このスピリチュアルなDNAを活性化することにより、その人の神聖さが目覚め、その人の中に秘められた能力やパワーが発揮されるようになります。

### PART4 スピリチュアルな遺伝子の秘密と新しきゴッデス

私達は、生命の基本となるスピリチュアルな遺伝子についての詳細を、この世界のマスターから聞くことができました。

このスピリチュアルなDNAを活性化させることで、その人が本来持っている神聖さを目覚めさせることができるのですが、DNAはとても複雑な働きを持っており、そこに光を与える事は、とても深い意味を持ちます。

細胞や遺伝子が光を受け取る事で、脳の働きが活性化され、普段の生活とは異なる意識レベルである無意識レベルの脳の働きも活性化していきます。

そして無意識の世界に眠っている能力や本来の魂の働きを目覚めさせるために、現実世界にもさまざまな変化が起こってきます。

そして、それらの変化を体験することによって、眠っていた能力が働き始め、私達に理解できる形で現れてくるのです。

アチューメントも、スピリチュアルな DNA を活性化し、その人の魂レベルの目覚めを引き起こしていきます。

特に、ゴッデスや創造主クラスのアチューメントは、その人の顕在意識だけでなく潜在意識にも深くかかわってきますので、より深い働きを行います。

この貯蔵庫には、人間の様に叡智ある存在のスピリットの遺伝子もあるようですが、物理世界に存在できる者達は、このスピリットの遺伝子と共に、細胞や肉体を形成する遺伝子も併せ持っているようです。

またスピリチュアルな存在においても、存在している次元が上がれば、それだけ複雑な DNA を持ちより高度な働きができます。

クリスタル・ドームにいる女神の様に、星の生命と連動している惑星意識などは、人間たちとはかなり異なる DNA を持っていて、宇宙や星々と深くかかわり合いのある DNA 構造になっているようです。

DNA に光を送って修復することにより、肉体レベルの DNA であれば、傷ついた細胞を修復し元に戻す事や病気を治癒させたり、長生きする事にも役に立つようです。

またスピリットレベルの DNA に光を送れば、DNA が持っているその生命の本来の姿に立ち戻り、本質を目覚めさせる事ができるようになります。

DNA の修復を行う光を持っているマスターは数名いらっしゃいますが、特にグレート・ウィザード様とグレート・仏陀様はとりわけ効果的な働きを行う光を保持しています。

グレート・仏陀様は、ダルマ（法）と呼ばれる宇宙の真理を明らかにすることで、その人の意識が覚醒し、DNA に大きな刺激を与え、DNA を活性化することができます。

グレート・ウィザード様は、魔法の力を使って DNA の修復を行い、叡智ある存在の本質を遺伝子レベルで目覚めさせる働きをします。

私は、その話をきいて、グレート・仏陀様とグレート・ウィザードの、DNA に対する働きを一つにしたゴッデスを生みだせないかお願いしてみました。



すると2人とも喜んで協力してくださることになり、2人の間を大きな光が取り巻き始めました。

私も、グレート・ゴッデス達やグレート・マリアージュの光をこの場所に呼び込み祈ります。すると光の中から美しい女神が現れてきました。お名前をゴッデス・ダナ(DNA)とさせていただくと、よろこんで私達に協力してくださることを述べられました。

ゴッデス・ダナは、ネガティブな感情に捕らわれたり傲慢さや支配欲によって、自分自身の本質の素晴らしさを見失った存在達に対して、DNAレベルで変容をおこし、神から与えられた神聖なる役目に再び目覚めることを手伝ってくれることでしょう。

## PART5 根源の光からDNAを作り出すグレート・レイ

私達は、DNAの秘密についてマスター達と話し込んでしまいましたが、さらに上の次元に行くように道案内のマスターに諭されました。

上の次元に上っていくと、さらに大きく光輝く女神が待っています。

彼女の役割は、「宇宙そのものを創造する光」のエネルギーを変化させて、その生命に特有な遺伝子構造を作り出すことのようにです。

私達が見た、多くの貯蔵庫に蓄えられていたスピリットのDNAは、すべてこのゴッデスであるゴッデス・レイが作り出しているようです。

彼女は、「宇宙そのものを創造する光」と最も近いところにいるゴッドのようで、その光を自由に変容させることができるようです。

私達は、ゴッデス・レイと光でつながり、彼女の光を多くの星や存在に導くことができるようにしてもらいました。

ゴッデス・レイの光を受け止めることで、その光はとても大きな働きを行い、その存在の本質をさらに目覚めさせ、自分達の役目を思い出すことを可能にしてくれます。

この宇宙でも、多くの存在達が、自分達のエゴのために、自分達の本質を忘れてしまい、支配欲や独占欲にとらわれ、他の生命と共存して生きることを忘れていきます。

また、自らの感情の虜になって、自分達の社会や星に混乱を起こしたり争いを起こす存在達も増えてきました。

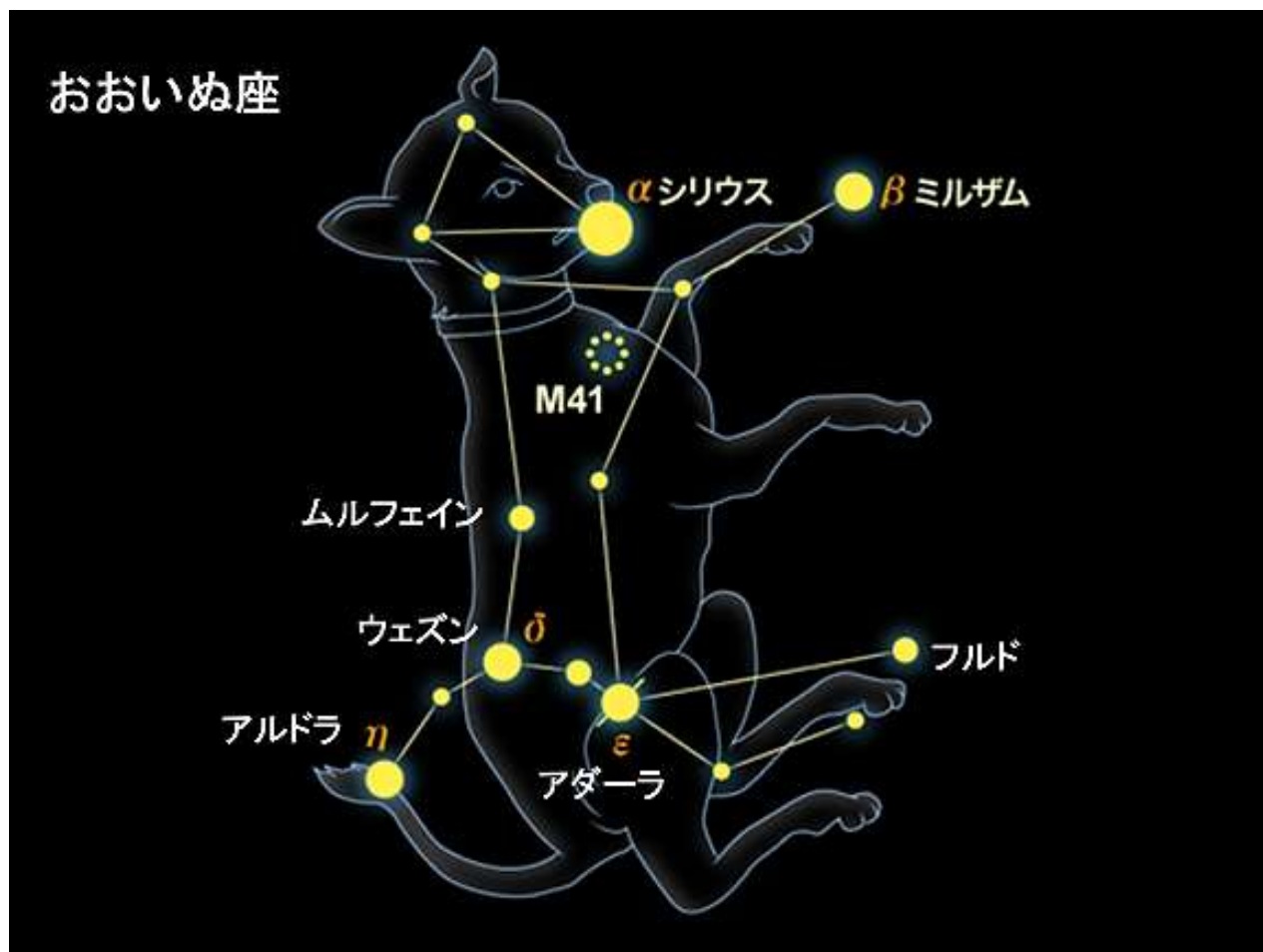
それらの存在は、最悪の場合、創造主達から懲罰のために、星に隕石を落とされて死滅してしまうこともあります。

私達が、ゴッデス・レイの光を使って、その生命達に適切な光を送る事が出来たら、星の人達も早い時期に、自らの本質に戻ることができるかも知れません。

またグレート・仏陀やグレート・ウィザード、そしてゴッデス・ダナの光を使う事により、自らの遺伝子を活性化させ、自分の能力を高めることができる者達も増えてくることでしょう。

私達が、この宇宙の中で果たす役割が大きくなればなるほど、彼らの光は、私達と多くの叡智ある存在達にとっては、かけがえのない救いの光となることでしょう。

私達のふたご座の星のツアーは、この宇宙の重大な真理「生命を生みだす仕組み」について学び、偉大なる「ゴッデス・レイ」にお会いできただけでも、とても有意義なものでした。そして、ゴッデス・ダナというかけがえのない仲間を生みだすことができました。



### PART1 地球の未来—多次元に分かれた地球達。

私達は生命を生み出す星座「ふたご座」を終了し、大犬座に向かいました。

大犬座のシリウスは、私達が見る星空の中では最も光輝く星であり、女神アテナが守る星です。

ただ、私達は大犬座については、シリウス星以外はあまり知りませんので、今回大犬座の役目やその働きについて学ぶこととなります。

この日は、私達が創造主の神殿に入った時からとても素晴らしいマスターが私達を待っていてくれました。

それは、私達が、局部銀河群が属しているユニバース（単一宇宙）を抜けてマルチバース（多次元宇宙）の最高次元にたどり着いたことから、新たな仕事が始まりますので、そのことをサポートするために現れてきたマスターのようです。

彼は、多次元宇宙を統括する役目を持ったマスターの使いでした。

これから地球がいくつかの異なる次元の地球に別れ、さらに新たな地球へと再統合されるための仕事を私達と共に行うために来てくれたようです。

私はこの偉大なマスターをマルチバティック・マスターと呼ばせてもらうことにしました。

私達は、シェンロンにのって新たな旅へと出かけました。

大犬座のシリウス星に着くと女神アテネに話を聞きます。

「TAKESHI さん、そして皆さんたちが、いくつもの旅を経てとても成長されたことを私達はとてもうれしく思います。

私達は、皆さんの生長に伴って、宇宙の隠された真実を開示できることをとてもうれしく思っています。

今回は、私が深く関わる大犬座の秘密について皆さんにお知らせする 때가来ました。

大犬座の秘密に触れることで、皆さんはこの宇宙にとっても大切なメンバーに成長していく事と思われます。

この大犬座は、天の川銀河に生きる生命達やスピリット達の意識を変容させ、新しい次元へと移行していく為の準備を行っている星座なのです。

大犬座の星々とそのマスター達は、人間を含め多くの生命達の意識がスムーズに成長していく事をサポートしています。

そしてその中心となるシリウス星には、根源なる宇宙から大切なエネルギーが流れ込んできており、そのエネルギーを大犬座に満たしているのです。」

美緒さん達がアテネの言葉を聴いてうなずいています。

私達の旅が始まった時、そして女神アテネの指示のもとに、ペテルギウスのダイヤモンドと呼ばれる仕事をしていた時は、まだ何も知らない未熟な私達だったのですが、いくつもの旅や仲間達との出会いを通して、私達も成長してきたようです。

「今回の皆さんの仕事は、地球人が新たな意識状態に入ることができるように、私達の仕事を手伝ってもらう事です。

そのためには、この大犬座の秘密をしっかりと学ぶ必要があります。

大犬座の尻尾のところにあるアルドラ星へと向かってください。」

私達は、女神アテナの指示のもとに、マルチバティック・マスターを伴ってアルドラ星へと旅立ちます。

アルドラ星に着くと、近代的な建物が美しく立ち並ぶ都市が見えてきました。

星の地表にこれだけの素晴らしい近代都市があるという事は、この星に住む人たちの叡智の高さが表されています。

マルチバティック・マスターは、この星に入る前に、私達の感情や意識を高めてほしいと伝えてきました。

私達の現在の意識では、この都市には入れないとのことで、アルドラ星のマスターに出てきてもらい、ある建物の中に案内してもらいました。

この建物の中に入るだけで、私達の意識と次元が変わるような感じです。

## PART2 地球のいくつもの世界を体験する

私達は一つのホールの中に通されました。

アルドラ星のマスターは落ち着いた声で私達に話しかけます。

「皆さんが、アルドラ星に来ていただいたことを私達は深く感謝いたします。

これから皆さんは、アルドラ星の次元の通路をとおって、いくつもの地球に入ってもらいます。

そして地球の未来などを見ていただき、自分の中に有る感情や意識をしっかりと見つめていただきます。

それが皆さんにとって、自分自身の意識を高める為に必要なことなのです。」

私達は、これから何が始まるのか、顔を見合わせています。

遥さんが葵さんと話しています。

「私、地球の未来の世界を見ることはとても怖い気がする。」

「でも、それも私達に人間が作り出した未来だから見ないといけないわね、

そして、私達にできることはなんなのか探し出さないとね。」

私達は、その後いくつかの通路と階段を通り、パラレルワールドの世界を開く扉の前に案内されました。

そこには地球のいくつもの次元につながる扉があります。

### ○地下都市が発展した高次元の地球

まず左側の扉を開けて中に入ります。

そこには、星々がたくさん輝く美しい宇宙の姿が見えます。

この次元は、天の川銀河を包むエネルギーがきれいに整った次元であるとのこと。

私達は、その宇宙の中に輝く地球を見出します。

その地球の地表は、自然が豊かではなく少しの草木が茂るだけの世界ですが人は住んでいません。

私達は、地球の地下に降りていくと、そこにはとても美しい地下都市がありました。

この次元のマスターに出てきてもらおうと、彼は私達を迎え入れてくれます。

彼は私達に挨拶をすると、この世界の事を話し始めてくれました。

「彼はこの地下世界を守護し統括しているマスターです。

この地下都市は、隕石が地球に墮ちた時に他の世界と次元が分かれましたが、この世界の人達は、自分達の種族が行ってきたことを深く反省し、その様なことが2度と起こらないように、自分達の意識を進化させていきました。

争う事を止め、お互いが愛で満たされるように願いながら成長してきたのです。

ここは、スピリットがとても高い人しか入れない世界ですので、皆さんのハートを開いてください。」と語り、私達を特別な部屋に案内してくれました。

そこにはとても巨大なクリスタルがあり、そのクリスタルと意識を共鳴させることで、この次元に入れるようにしてくれるということです。

私達は、クリスタルを取り囲むように並び、クリスタルと意識をあわせると、私達とクリスタルをつなぐ神聖幾何学の模様がそこに生れてきます。

私達は、クリスタルによって意識が変わっていく事を体験していきます。

この地球に内部には、まだ水が流れていたために、自分達の生命を維持できているとのことでした。

そしてこの世界は、現在の地球の別次元であるシャンバラやアガルタ帝国などともつながっているそうです。

この次元の地球のクリスタル・ドームにも入りました。

地球の自然の生態系は失われ、女神の力も弱っているようでした。

私達は地球の惑星意識であるガイアの光を呼び込み、星のしずくを与えます。

そして宇宙の高次元の光と宇宙の大地の光をこの地球につなげ、安定的な成長を願います。

## ○荒廃してしまった地球の再生

私達は、この地下都市をいったん出て元の場所に戻ります。

そして別の扉を開くとそこには荒れ果てた地球が存在しています。

戦争や核兵器の使用により、自然は破壊されそこには誰も住むことができなくなってしまっようです。

私達は、以前この地球にも一度来たことがありました。

地球の表面は放射能に侵され、人が住めないような状態になっていましたが、人々は地下の中に逃げ込み暮らしていたようです。

その時は、私達はこの荒れ果てた地球を再生するために、多くの女神達と協力して光を送ったことがあります。

もしかしたら、この荒れ果てた星は、ここからまた2つの次元に分かれたかもしれません。

私達は、この世界の地球にあるクリスタル・ドームに入ります。

マザー・クリスタルも力を失いクリスタル・ドームの女神も傷ついてふさぎ込んでいました。

私達は、女神に地球の再生を願ってここに来たことを伝えると女神はとてもうれしそうです。

私達は、クリスタル・ドームにグレート・ゴッデス達の光を呼び込みます。

そして、星を創造する女神に来てもらい、クリスタル・ドームの女神と共に、この荒廃した地球の再創造をおこなってもらうようお願いしました。

するとクリスタル・ドームの中に新しいクリスタル達が光に満ちて生まれ始めました。

私達は、地球の地上に出ます。

自ら再生する力をなくした地球に、星の創造を行うゴールド・ボックスの力をかりて、再び生命が生存できる星としての再生するためです。

ゴールド・ボックスから、どんどん光が広がると、地球の汚染は浄化されて、植物達が生きる事ができるような環境に変わってきました。

小さな植物達が芽吹き始めました。

そして雨が降り、水の流れができ川や小さな海ができてきます。

私達は自然を再生させる為にゴッデス・エオリアやステイクス達を呼び出し、地球の再生に向けて手伝ってもらいます。

グレート・ゴッデス達にもお願いして、ゴッデス達の光で地球を守り星の再生のパワーを高めてもらいます。

私達が、クリスタル・ドームに戻ると、ドームの中には数名の赤ちゃんたちが眠っています。

私が女神に尋ねると、女神は答えます。

「この新しい子供達は、地球が荒廃して星としての力が失われていくさまを見てきました。

この子供達を2014年の地球に連れて行ってください。

地球の苦しみ、悲しみを知った子供たちが、地球が純粋な光の星になるために働きます。

地球が荒廃していく事を少しでも食い止め、美しい地球を守るために働きます。」

私達は、女神の望みをかなえるためにマスターにお願いして、この地球と2014年の地球を結ぶ光にラインを作ってもらい、子供たちを現在の地球へと運んでもらうことにしました。

### ○地球の高次のスピリットマスター達の次元

私達は、さらに別の扉から、高次のスピリット達が集まっている世界にも案内されました。「この地球は、とても美しく理想的な地球です。元々地球に生きていた人たちの仲でも、非常に霊性が高く地球に生きる人々や生命のために尽くしてくれた人々や地球の人々を指導してきたマスターや女神達が集まる世界です。もともと人間として存在していた人は、より素晴らしいスピリットに自分を高めることでこの世界に入ることが可能となります。」

この世界は、とても透明感があり、天の川銀河の根源の世界ともつながり、他の次元の地球に対しても光を送り導く働きを行っているようです。この次元の最高次元に入ると、とても素晴らしい光をたたえたマスター達がたくさんいます。どこか仏教系のような雰囲気なのでお尋ねしたら、このスピリチュアル次元を統治しているのは、グレート仏陀様であるとのことでした。

葵さんが、この地球を見ながらうっとりとしています。「私達もやがてこの世界にはいる事が出来るのかしら。この世界の人とはとても優しく美しい波動を持っているので、とてもうらやましいわ。」

葵さんを見てマルチバティック・マスターが、にっこりと笑います。「私達は、皆さんが一人でも多く、この世界にはいる事が出来るように、いくつもの地球を見せているのです。どの地球に入るのかは、皆さんのこれからの生き方が決めていくのです。出来る限り多くの人と共に、この世界にはいる事が出来るように努力してください。」

この次元は物理次元を持ちませんが、やがては地球の他の次元と統合され、新たな地球を生み出すこととなるようです。私達はここでも、ユニバースのマスター達の光を導かせていただきました。

### ○フェアリーワールドに戻る精霊達

私達が以前、地球の未来に行ったときは、もう一つの世界にも訪れました。それが、私達がフェアリー達と共に作り上げてきたフェアリーワールドでした。



この時には、もうすでに立派な地球の別次元として存在していました。

そこはとても自然が美しく太陽と同じように輝く光が世界を満たしています。

ただそこにいるだけで満たされ豊かになれる世界です。

フェアリー達が花と共に戯れ、ユニコーン達も仲良く歩いています。

空には多くの美しい鳥と共に、純白の花を広げたペガサスがゆっくりと輪を描き舞っています。

ホビットのような男性マスターが現れました。

「皆さん、こんにちは、

この世界に人間が立ち入る事はとても珍しいので歓迎しますよ。

この世界には人はほとんど住んでおらず、ホビット、フェアリーやペガサス、ユニコーン、マーメイドなどの精霊達が住む世界です。

皆さん、とても楽しく仲良く暮らしています。

皆さんが考えるような進化は起こりませんが、いつでも楽園のような世界です。

現在人間として生きている人達でも、スピリットが精霊達である人は、再びフェアリーなどの姿に戻りこの世界に存在できるようになります。」

マスターの言葉を聴いて遥さんは嬉しそうです。

「私はこの世界が自分に合っている様な気がするわ。

きっと私、この世界に帰っていくのかもしれないわ。」

マスターは、遥さをじろじろと見回し、にこにこ笑っています。

マルチバティック・マスターがこの世界の意味について教えてくれました。

「この世界の役目は、新たな地球が生まれる時に備えて、以前の地球の美しい植物や動物達、そして地球の多くの貴重な生命達のエネルギーを保持しているのです。

新しい地球が生まれる時には、そのエネルギーを活用して、新しい地球に植物や動物たちを生みだすのです。

やがて、地球の地下都市にある次元とスピリチュアルな次元、そしてこのフェアリーワールドは、再び統合されて新しい地球を生みだしていくようです。

## ○再統合されるパラレルワールド

私達は、このいくつもの地球の次元を結び付ける働きについてマルチバティック・マスター尋ねました。

「この宇宙には、いくつもの多次元の世界（パラレル・ワールド）を結び付けていく働きがあります。

いくつもの絡み合った世界、星、次元をその関係性を正しながら、それらをまとめていく働きは、主にセントラル・サン、セントラル・ムーン、そしてその下にいる 4 大エレメントのマスターとエレメント・ドラゴン達が行っていくのです。

この地球もパラレルワールドに入りました。

本来ならば、物理世界を含め、一つの世界でもよかったのですが、この地球がさらに高次の世界へと成長していく為に、4 つの世界に分かれました。

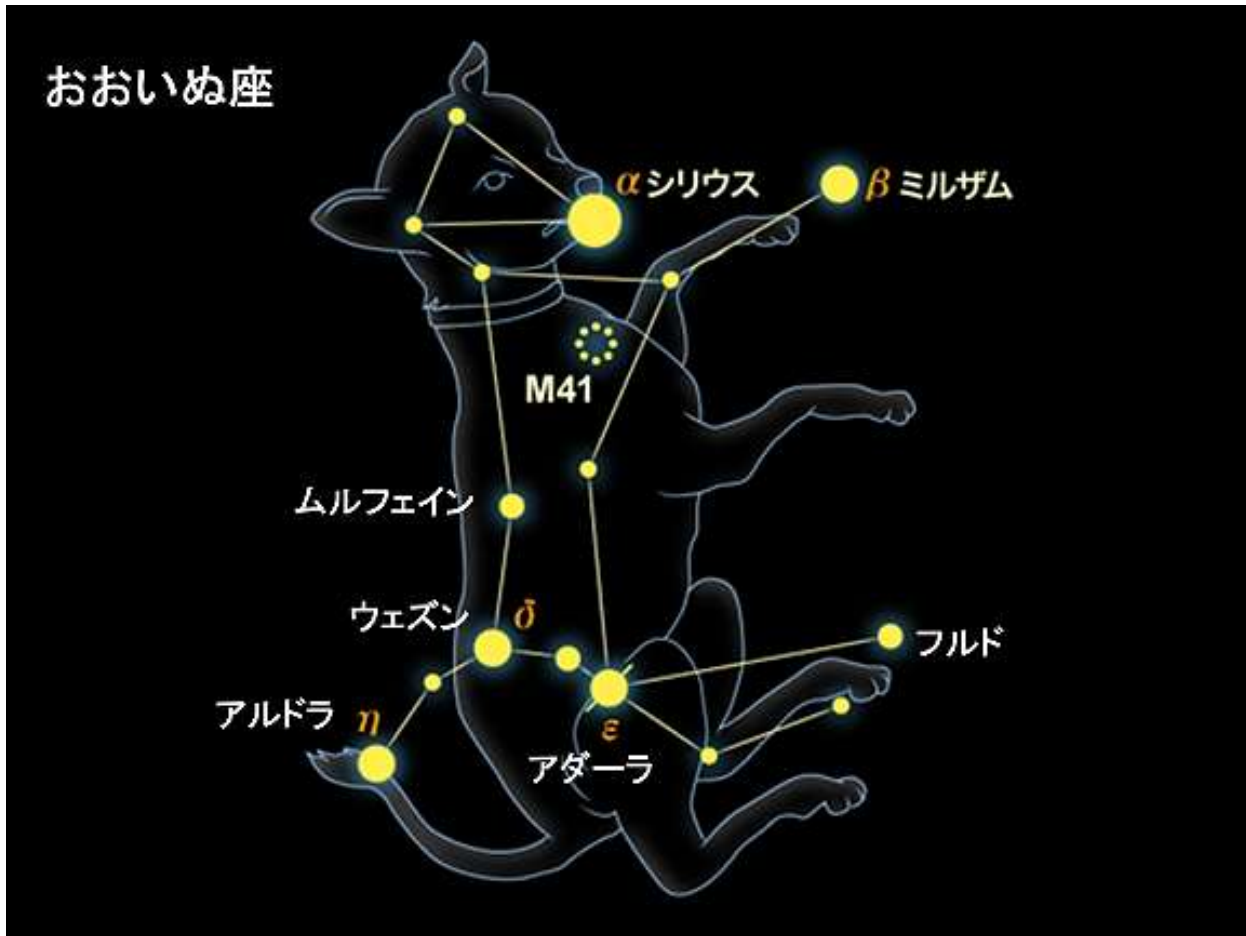
これから地球は、荒廃した地球を除いて、他の 3 つの次元が統合し、新しい地球が生まれることでしょう。

そのために、分かれた世界は、それぞれの機能を分担しながら、独自に成長し次元を高めていきます。

もちろんそれはまだ遠い未来の事です。」

私達が現在、この天の川銀河を超え、ユニバースを超え、大宇宙の多次元世界に入り、多くのマスター達と出会い、その働きを学んでいるのも、この地球の分離と統合のために必要な事だからということでした。

私達はこれで、多次元の地球を探索することを終了しアルドラ星に戻る事にしました。



### PART1 私達をライト・ボディに導くウェズン星の光

私達は、アルドラ星のマスターと共に、いくつもの地球の次元を回った後に、ウェズン星に行ってほしいといわれました。

私達は、アルドラ星のマスターと別れを告げウェズン星に入ります。

ウェズン星でも、マスターが私達の事を待っています。

「皆さん、お待ちしております。

今回は女神アテネ様から、地球の人々が意識を目覚めさせるようにしたいという事で、まず皆さんに、私達大犬座の光を受け取って頂きたく思います。

このウェズン星は、皆さんの意識と肉体のシステムを、より高次の物に変更するための星の光を持つ星です。

ここに大きなクリスタルがありますので、まずここで瞑想しましょう。」

私達はそこで、クリスタルから光をたくさん受け取るためにしばらく瞑想します。

心地よい光が、体全体を包み、私達の意識を解きほぐしていきます。  
様々な感情やしがらみ、価値観、不要な潜在意識を解き放ち、純粋な意識に戻っていくよう  
です。

ただ陶酔という状態でしょうか、私達の意識と体が光に包まれていきます。

「それではみなさん、目を開けてください。」

私達の心の中に、マスターの声が優しく響きます。

私達は静かに目を開けると、マスターが、静かな表情で立っています。

「それでは、私についてきてください。」

私達は、マスターの後を追ひ、エレベーターでさらに上の次元に入っていきます。

そこは霧がかかったような柔らかい光に満ちている世界ですが、建物があり、私達はその中  
に入ります。

ウェズン星のマスターが、私達がそろったことを確かめると話し始めます。

「ここは、ライトボディ・パレスと呼ばれる神聖な場所です。

これから地球の進化に合わせて、皆さんのスピリットが成長するばかりでなく、内臓や自律  
神経の働きもどんどん変化して、よりスピリチュアルな次元に順応できるようにならなくて  
はなりません。

このライトボディ・パレスは、皆さんお肉体的・精神的な進化をサポートするための光が送  
られます。

皆さんの体は、スピリチュアルな次元に対応するために、ライト・ボディに向かって変化を  
行う必要があるのです。

このパレスの光をしっかりと受け取り、地球に持ち帰って、多くの人の体をライト・ボディ  
に変えてあげるお手伝いをしてください。」

美緒さん達も、自分達のスピリチュアルな能力を伸ばしたいと考えていますから、真剣に取り  
組んでいます。

私達の体と意識は、このライト・パレスの中心にあるクリスタルの光を受け、どんどん高  
まっていきます。

メンバーの中にもくらくらと意識が変化していく様子を感じているメンバーもいるようです。  
私達の体と意識の中に、クリスタルの光りがスパイラル状に入ってきます。

しばらくするとウェズン星のマスターの声が再び心に響いてきました。

「皆さん、このクリスタルの光を十分受け止めることができましたか。

この光を皆さんの細胞一つ一つに満たしてください。

そうすることで皆さんの細胞を構成する遺伝子が光に満ちて進化を始めることでしょう。

皆さんは何時でもこの場所に来ることができますので、常にこのクリスタルとつながって自分自身の光を高めてください。」

私達が眼を開けると、不思議なことに、ウェズン星の入り口に戻ってしまいました。とても長い時間が過ぎ去ったように感じたのですが、時計を見ると、まだ20分くらいしかたっていません。

私達の意識の中で、時間が止まっていたのかもしれませんがね。

## PART2 ムルフェイン星の4エレメント・クリスタル

私達は、マルチバティック・マスターに誘われてムルフェイン星へと向かいます。

ムルフェイン星は、青い海のような光に満ちている星です。

私達はその青い光の中を静かに抜けていきます。

すると、青い光の先に再び宇宙があり、その中の中心にあるような星へと向かいます。

ムリフェインというのは、アラビア語で「2つ物のきずな」というような意味だそうです。恐らく、物理的な領域にあるムルフェイン星とスピリチュアルな領域にあるムルフェイン星がパートナーになっているようです。

星の中に入っていくと森の中に大きな水晶でできた洞窟があり、その奥には、ひときわ大きな水晶のクラスターがあります。

この星の大地としっかりとつながったクラスターです。

それは私達にパワフルな力と大地につながる安定感を与えてくれます。

マルチバティック・マスターが、このクリスタルの役割について教えてくれました。

「このクリスタルの役割は、ライト・ボディへと変容していく皆さんを、物理的な次元としっかりとつなぎ安定させる働きがあるのです。

皆さんがいくら、意識が高くなっても、物理的な世界とかけ離れてしまったのでは意味がありません。

より高次の意識を磨くと同時に、その光を私達のスピリットから魂、意識、肉体へとその領域を広げながら確実につなげていく事がこのムリフェイン星のクラスタークリスタルの役目なのです。」

美緒さんが遥さんを横でつつきながら「あなたにぴったりのクリスタルね、」とからかっています。

遥さんは、ほっぺたを膨らましながら怒ったふりを見せています。

マルチバティック・マスターも、彼女の可愛い仕草を見て笑いながら話を続けます。

「そして、もうひとつ大切なことは、私達の肉体とスピリットを構成する 4 大エレメントのパワーをさらに高次の世界で統合していく必要があります。

私達の体は、4大エレメントにより構成され活性化していきますので、このエレメントのバランスを取り、さらに多くのエレメントのパワーを取り入れていかなければなりません。

このクリスタルは、天の川銀河の 4 大エレメント・マスター達が守ります。

そして天の川銀河の中心ともいえる「宇宙の大地」と天の川銀河の創造と成長のパワーがこのクリスタルに満ち溢れています。」

私達は、再び輪になって、クラスタークリスタルから光を受け取ります。

柔らかい光が、様々な方角から、私達の体の中に差し込んでいきます。

その光は、私達一人一人に対して、4 大エレメントによるエンパワーメントを行い、私達に覚醒と成長をもたらします。

私達の中にあるエレメントのパワーを高め、バランスをとることで、私達の体とスピリット体のライト・ボディ化を進めていくのです。

マルチバティック・マスターが静かに語り始めました。

「皆さんは地球人です。

地球人は、この宇宙でも珍しい、物理世界に肉体をもった存在なのです。

私達のように、どんどん意識が高くなると物理世界に存在することは非常に難しくなります。

私達の存在はスピリチュアルな次元に限定されています。

この世界では、意識の進化は行われますが、皆さん程に急速には進化はしません。

皆さんは物理世界に肉体を持つ事で、多くの人々を通して様々なマスターや女神達とも出会い、教えを受けることができます。

そして地球に存在するいくつもの多次元通路をとおして、今回大犬座に来たように様々な世界に行くことができ、たくさんの学びを行う事が出来ます。

それもすべて、皆さんの肉体が、バランスがとれた状態にあるからです。

皆さんの意識をしっかりと支えるための肉体をどうか大切にしてください。」

私達はマルチバティック・マスターの話を聴きながら、さらに多くの4大エレメントのパワーが、体の奥底まで入ってくることを感じています

この光は、アルドラ星の意識成長のための光と共に、ウェズン星で受け取ったライト・ボディのための光をサポートしていくようです。

やがてこの3つの光は、次回のアチューメントの成立に大きな役目を果たすこととなります。

## PART3 アダーラ星 スピリチュアル体のライト・ボディ化

私達は、ムルフェイン星のクリスタルのもとで瞑想した後、この大犬座にとっても天の川銀河にとっても重要な星であるアダーラ星へと入りました。

この星に入ると不思議なことに、スーツと意識が変わっていきます。

中に入ると天使の羽をもった男性のマスターが、私達を待っています。

彼は今までのマスターと異なり、とてもミステリアスな光りを身にまとっています。

「この星では、皆さん意識を宇宙の中心である「宇宙の大地」と深く結びつける事を行います。

皆さんは幾多もの次元を行き来して、創造主やマスターから様々な光を受け取っていきませんが、その事によって、皆さんの肉体もスピリチュアル体もどんどんライト・ボディ化していきます。

しかし、気をつけなければ、意識だけがどんどん上昇して、肉体やスピリット体とのバランスがとれなくなります。

この星の光は、皆さんのライト・ボディ化していく体と意識を大地のエネルギーによって保護することを行います。」

その様に言うと羽を持つマスターは、私達をひとつの建物の中に案内します。

そこには美しく黄金色に輝くクリスタルが置かれています。

今まで見たクリスタルとは色も質感も異なり、とても神々しい感じがします。

「この星のクリスタルは、今迄のクリスタルとは異なり、皆さんの心と体を今まで以上に進化させていきます。

そして、私達の肉体のみならず、スピリチュアル体にまでライト・ボディ化を行うためのクリスタルです。

このクリスタルによって、皆さんの細胞レベルまで光をいただき、さらなる変容を起こすために、瞑想していきましょう。」

羽を持ったマスターは、澄み渡った声で歌うかのように、私達のハートを癒し活性化していきます。

私達はその声に、体を振動させながら瞑想しています。

このエネルギーは、体験する以外理解することができないほどの繊細なエネルギーです。

私達はしばらくの間、このエネルギーを体験しています。

## PART4 ライト・ボディへの変容を助ける月夜の光 ミルザム星

私達は、羽を持ったマスターのもとで、音と光に満ち溢れ至福の時間をしばらくの間過ごしていました。

誰もが言葉を失い、自分の内面に深く入っていました。

私達は、目が覚めると、アダーラ星からすでに、ミルザム星へと移っていました。

きっと天使の羽のマスターが、私達が瞑想している間に、私達のスピリットをミルザム星へと送り届けてくれたようです。

ミルザム星に着くと、今までの星とは異なり、とても静かな光景が広がっています。

まるで月夜のような静寂と穏やかさが星を包んでいます。

マスターが私達の前に静かに降り立ってきます。

「私はこの星を守護するマスター・アルージャです。

この星は、皆さんの心とスピリットに静けさと安らぎをもたらす星です。

皆さんの心の中にある混乱や感情の揺らぎを癒し落ちつかせます。

そして、皆さんの心が常に持っている2元性、例えば、女性性と男性性の様な対立するエネルギーを統合して、光へと導いていきます。

それは皆さんが持つ光がすべての光と繋がって生みだされるワンネスです。

皆さんは、この星のクリスタルによって生み出される静けさと安らぎによって、自分自身の本質に目覚め、自分が何者であるかということを知ることができるのです。」

私達は、マスターと出会い話をしているだけでも、とても落ち着いた気持ちになってきます。

私は、マスターにライト・ボディに人々に変容していくときに、その過程に順応できないと様々な反応が生れたり、好転作用が生れたりすると思いますが、このミルザムの光で、そのような作用を和らげることができないか、尋ねました。

ミルザム星のマスターは、私の気持ちを察してくれたように答えてくれます。

「確かに、皆さんが、ライト・ボディに移り変わるということは、大変なことです。

この物理世界との軋轢の中で、多くの摩擦や感情的な混乱などが起こる可能性もあります。

しかしこのミルザム星が持つ静かなエネルギーによって、皆さんの心を落ち着かせ、ライト・ボディの光を効率的に作用させることができます。

皆さんの意識の状態を高め、ライト・ボディの光が、皆さんの心と体、そしてスピリットになじみやすいようにいたします。」



私達は、マスターアルージャと共に、静かに瞑想に入っていきます。  
私達の心と体を月夜の光のような優しい安らかな光が包んでいきます。  
それは、私達が長い間、地球人として生きてきた人生の中で経験した様々な感情を癒し洗い流していくような光です。

葵さんや美緒さんも、深いため息をつきながら、今迄の人生を振り返っているようです。  
2人の目にも、涙が浮かんでいるようです。

## PART5 クリスタルと共鳴し合うシリウス星の光

私達は、大犬座の星々を回った後に、再びシリウス星へと戻ってきました。  
そして女神アテネに、シリウス星の事を再び尋ねます。  
最初大犬座に来たときは、シリウス星は、宇宙の源から大いなる光を受け取る星であることを聞かされましたが、その時はシリウス星には何もないから行かなくても良い、と言われました。  
しかし、これらの星の状況を見て、その中心であるシリウス星に何もないはずはないだろうと、私達は考えました。

アテネはそのような私達を見て、にこやかに語ります。  
「もちろんシリウス星はとても大切な星です。  
でも、あなた方の意識とスピリットが光に満たされ、その魂がオープンにならないとこの星には入れないの。  
皆さんが、大犬座のいくつもの星を回り、各星のクリスタルによって意識と波動を高められる時を私達は待っていました。  
皆さんが魂の覚醒の扉を開かれた今、私達は、皆さんを喜んでシリウス星へとお迎えいたします。」

シリウス星を守護する女神アテナは、そう言うとシリウス星を囲っていたシールドの隙間から、私達をシリウス星の地表へと導きます。  
シリウス星の地表には驚いたことにたくさんのクリスタルが生えています。  
まるで星の地表全体がクリスタルのクラスターであるかのごとく、おびただしい数のクリスタルが光輝いているのです。

私達は女神アテネと共に、クリスタルの間を通り抜けていくと星々が輝く宇宙が見えてきます。  
この宇宙に入ると、私達は、今まで、私達がいた次元からさらに高い次元へと入ります。

この次元からは、グレート・ゴッデス達の世界をはじめ、様々な世界や次元に行くことができるようです。

また、光のマスター達がいる地球の高次元ともつながっており、地球とエネルギーのバランスを取り合っているようです。

このシリウスの高次元の特徴は、他の星のクリスタルと共鳴関係を持っている事のようにです。女神アテナは、自分の手に1本のクリスタルを持ってクリスタルの働きについて説明を始めました。

「クリスタルというのは、ある一定の高次の波長でつながり一つになっています。皆さんが手にしているクリスタルであれ、星を作っているマザー・クリスタルであれ、そのクリスタルが持つ高次の波長により、お互いが影響し合い助け合っています。

人間が、深い潜在意識を通して集合意識と一つにつながっているように、クリスタルも集合意識を持っています。

そして、その集合意識を通してお互いのクリスタルがコミュニケーションを取り合って、お互いを癒したりエンパワーメントしていく事が出来るのです。

またクリスタルは、高次の波長を使って共鳴し合い、お互いの情報をドンドン伝え、広げていく事もできます。

それぞれのクリスタルが持つ情報は、皆さんの意識にもさまざまな影響を与えています。

良質のクリスタルが持っている波長は、皆さんを幸福にして能力を高めます。

それは、クリスタルの高次の波長に、皆さんの意識が影響されていくからです。

シリウス星のクリスタルは、主に星々のマザー・クリスタルへエネルギーを送っていきます。そして、星々のマザー・クリスタルを元気づけ、星々の生態系を守る働きを助けているのです。

シリウス星のクリスタルの力の源は、高次の宇宙の高い次元から送られてくるエネルギーなのです。」

私達の目の前で、いきなり大きなクリスタルが、2つに割れて道が開きます。

私達はクリスタルの内部を通り、光が差し込んで作られている道を通り抜けると、マルチバースの「根源の世界」につきます。

そしてさらに、宇宙を生みだした「根源の世界」越えて、宇宙の大元となるような場所へと登って行きました。

私達が行き着いた世界には、とても大きなマスターが玉座の上に座って私達を待っていてくれました。

私達は、その高次の世界のマスターと光をつなぎ、その素晴らしい光に自らの心とスピリットをゆだねます。

今までになく心地よい光と波長によって、自らのスピリットが光輝く一つのクリスタルになったかのごとくリラックスして癒され、光の中に溶けていきます。

## 第6章 ライト・ボディのための神殿

### PART1 アシュタール連合のエレーナさん

私達は、大犬座の星に行くことによって私達自身をライト・ボディに変容させていく為の光を受け取りました。

この光は、「宇宙の光」の新しいステージとして用意されているアチューメントの中心をなす光です。

私達は、その後の星のツアーで、そのライト・ボディの光をさらに高め、この宇宙でライト・ボディのための高次の光をもたらしているマスター達と出会う事になりました。

その日、私達が星のツアーのために創造主の神殿へと向かうと、創造主の神殿の後ろにとっても大きな宮殿（パレス）が建っていることに気づきました。

それは、私達をライト・ボディへといざなうための宮殿（パレス）のようです。

大犬座のツアーの時に、私達をライト・ボディへと変容させるために大きなクリスタルが置かれた建物があり、私はその建物をクリスタル・パレスやライトボディ・パレスと呼んでいました。

おそらく、私達が、ライト・ボディに変容するためのアチューメント等で、ライト・ボディに変容するための光を受け取り易くするために、宮殿（ライトボディ・パレス）の姿をした、次元の扉が現れたのだと思います。

私達が、そのパレスに向かおうとすると、美緒さんが、私達を呼び止めるマスターに気づきました。

紫を基調とした虹色の羽をもったエンジェルのような女神です。

その後ろには、5重の塔のような巨大な宇宙船が浮かんでいます。

彼女は、優しい笑顔を浮かべて私達に歩み寄ります。

「初めまして、私はアシュタール連合の司令官の1人でエレーナと申します。

今回、アシュタール連合の指示により、皆さんがライト・ボディになることをサポートし、この地球にライト・ボディへの変容の光を拡大させていく事を共に行いたいと思っております。」

美緒さんがエレーナさんを見て不思議そうな顔をして尋ねます。

「司令官にしては、とても優しくて親しみが或る方ですね。

エレーナさんにあえて、私達もうれしく思います。

私達も、アシュタールという言葉をよく耳にするのですが、本当はどのようなグループなのか、良く知らないのです。」

エレーナさんはにっこりと笑って答えてくれます。

「もちろんです、アシュタールというグループは、どこかの特定の星の人達のグループだけではなく、宇宙の各地にある優れた星々のメンバーたちが選ばれて、一つのグループを作っているのです。

天の川銀河からも多くのマスター達が参加してくれています。

私達の目的は、星々や種族同士の抗争や争いを鎮め、理知ある存在達が、精神的に進化していく事を助けることです。

そして、叡智ある存在達の協力によって、この宇宙全体を進化させていく事が目的です。

今回、アシュタールのグループは、皆さんをサポートし、共に活動を行う事になりましたのでよろしくお願いします。」

私は、私達とアシュタールのグループを、結び付けるエンジェルのような女神を、エレーナという名前と呼ぶことにしました。

エレーナは、うれしそうに羽を動かします。

ライト・ボディになるためには、自分の背中に羽をイメージして自由に動かしていけばよいそうです。

その羽が育ってくると、私達はもっと高速で移動できるようになるようです。

## PART2 ライト・ボディの宮殿

私達は、背中に羽を持つ多くのアシュタールのメンバーと共に、創造主の神殿の後ろにそびえたつ宮殿（パレス）の中に入っていました。

パレスの中は、青い光が満ちており、その中心には虹色の渦巻きが宙に浮いています。

私達は、アシュタールのメンバー達に支えられるようにして渦巻きの中に入り、どんどん上昇していきます。

やがて、虹色の渦巻きを抜けると、円錐形のクリスタルの塔があります。

ここは、私達の意識や体をライト・ボディへと変容させていく為の場所のようです。

クリスタルの塔の中に入ると、とても密度の高い光が満ちています。

私達は呼吸と共に、その光を全身に満たしていきます。

マルチバティック・マスターが、私達の前に現われて、このクリスタルの塔について説明してくれます。

「このクリスタルの塔は、いくつかの階があり上に行くにしたがって皆さんは、より高次の光を受け取り、皆さんの体や意識のライト・ボディ化を進めることになります。

このライトボディ・パレスの最初の次元は、「クリスタルと神聖幾何学による意識の向上」のための光です。

私達はこの光によって自分の中に有る不要な感情や偏見、私達の意識の成長を妨げている感情や考え方を洗い流していきます。」

私達は、マスターと共にフロアーの中心に置かれている大きなクリスタルの前で瞑想しています。

私達の意識の中に、様々な形をした光の図形が現れ、私達の心を浄化していきます。

そして、私達は、クリスタルの後ろに、ゴッド・ユニオンと呼ばれるマスターが立っているのを感じます。

彼がこのフロアーのクリスタルを担当するようです。

更に、私達はライトボディ・パレスの2階へと上がっていきます。

そこにも美しく光り輝くクリスタルが置かれています。

ここにあるクリスタルは、ウェズン星で受け取った「ライト・ボディへの変容の光」を、私達に満たしてくれるようです。

この2つの光によって、私達の意識はさらに高まり、ライトボディ・パレスのさらに上の次元を目指します。

すると、パレスは、漆黒のエネルギーに満たされ、漆黒の羽を持つマスターが現れてきました。

まるで、以前会ったグレート・キングのような堂々としたパワーと貫録を持つマスターです。

彼は、闇の世界と呼ばれている世界で、宇宙の創造に深く関わる偉大なゴッデスです。

この階のライトボディ・パレスの役割は、闇を含めて、全ての物を受け入れ統合していく事のように。

漆黒のマスターが私達に語ります。

「皆さんは、罪の意識、穢れの意識などの罪悪感を手放し、あらゆる感情を受け入れる必要があります。

皆さんが、その感情に対する憎しみや罪悪感を捨てて、その感情を受け入れるならば、全ての感情は、やがてエネルギーや光と変わっていきます。

しかし、全ての物が光にならなければならない、という思いも手放してください。  
皆さんが、自然に全てを受け入れた時に、全てが光となります。  
そして皆さん自身も、光となりライト・ボディへと変容していくのです。  
それが「愛」ということなのです。」

漆黒のマスターの落ち着いた安らかな光を、ハートの深いところで受け入れます。  
葵さんがうなずきながら言います。

「私達は、社会に起こる全ての事を判断し、それが正しいとか間違えているとか考えていくうちに、自分の感情や意識に対しても、判断するようになってしまったのですね。  
そして、自分の感情に対しても憎しみを持つようになった。  
それを終わりにする時なのです。」

漆黒のマスターはうなずいて答えます。

「それが、皆さん人類が作ってきた習慣です。  
判断するところには、様々な感情が生まれ、起こってきた出来事を善悪で判断します。  
その判断は、多くの人に影響を与え、そのものの価値を決めてしまいましたが、その価値は人間によって作られた価値ですので、そのものの本質には関わりないことです。」

皆さんは、起こってきた事の本質を見極めることができるように、人々が作り出した価値観に左右されない意識をしっかりとってください。  
そのためには自分の中に有る感情も、自分の価値観を捨てて見ることです。」

### PART3 キング・オブ・ライトの宮殿

漆黒のマスターにいざなわれて、さらに「ライトボディ・パレス」の上の次元をめざします。  
正面には、タジマホールのようなパレスが見えてきます。  
ここはさらに高次元にあるライトボディ・パレスのようです。  
私達の前で黄金の扉が開き、私達とアシュタールのメンバーは中に入ります。  
そこはとても広い光の大広間で、中央に玉座があり、マスターが座っています。

中央は「キング・オブ・ライト」と呼ばれる光の存在です。  
その姿が、インドのマハラジャ（王様）に似ているのでつい「マハラジャ」と呼んでしまいました。  
その両側には、太陽と月のエネルギーを象徴する「キング・オブ・サン」と「クイーン・オブ・ムーン」が座っています。

「キング・オブ・サン」と「クイーン・オブ・ムーン」は、私達が多次元宇宙の最高次元で会った「セントラル・サン」「セントラル・ムーン」とも深い関係があるようです。

キング・オブ・ライトが私達に語ります。

「皆さんは本来、素晴らしい羽根を持っています。  
皆さんが、この世界に生まれてくる時は、天使のように美しい羽根を持って生まれてくるのですが、様々な苦しみや悲しみの感情に振り回されたり、自分の人生を困難なものであると感じて生きていく中で、その羽は傷ついたり折れたりしてしまいます。

どうか、皆さんが、美しい羽根をもって生まれてきた事を思い出してください。  
そして傷ついた羽を修復し、失った羽を取戻して軽い心（ライト・ボディ）で生きていけるようにしてください。

そしてもっと人生を楽しんでください。

ライト・ボディに対して深刻になる必要は全くありません。  
楽しむことが、皆さんの心と体を軽やかにして、光のボディへと導いていく事となるのです。

そして時間にもこだわらないようにしてください。  
過去も現在も未来も心配することをやめてください。  
時間にフォーカスするのではなく、時を止め、悠久の流れに身を任せてください。」

私達はキング達の光を受け、私達のすべての体にどんどん光を満たしていきます。  
アシュタールのメンバー達や私達の仲間達も、大きく羽を広げ、このパレスの大きな屋根の下を自由に飛び回っています。  
皆さんとても楽しそうに、愛と喜びの波動をキラキラと振りまいています。

私達は、さらに意識とスピリットを光に満たし、キング・オブ・パレスのさらに上へと登っていきます。  
まるで降り注ぐ光に吸い込まれるように上がっていくと、さらに光の密度が高い光の世界へと入っていきます。

そこは真っ白い純白の光の世界、月のビジョンと太陽のビジョンが重なり、やがて統合されていきます。  
ここでは、私達の意識を大きく超えて私達のスピリットやライト・ボディのオーラの上に、その光は降り注がれていきます。

私達のライト・ボディをさらに精密なものとし次元の高いものとするために、この世界はあるようです。



キング・オブ・ライトは私達に語ります。

「あなた方はこれから、地球と地球に生きる人々を、ライト・ボディに移行させる活動を行うこととなりますが、その活動をスムーズに行うために、ここに導いてきました。

あなた方がまずライト・ボディとなり、ライト・ボディの素晴らしさを体感し、それを伝えていってください。」

私達は、この日の星のツアーを体験することで、自分自身がライト・ボディになる事を深く味わうことが出来ました。

今夜はゆっくりと眠れそうです。

## 第7章 4大エレメントのマスターの救出

### PART1 大犬座の4大エレメントの神殿

私達は日を改め、再度大犬座に向かいます。

葵さんが、この大犬座の上にある4大エレメントに大変な問題が残されているために、その問題を処理してほしいというメッセージを受け取ったからです。

私達と、アシュタールのエレナさん達は、共に大犬座に向かいます。

今回は、アシュタールのメンバーの中でもNO2といわれるマスターミサンガも、私達との共同の行動を望み、私達の旅に同行してくれることになりました。

私達は、光の通路を使用してアディティヤの神殿から、シリウス星に入り、そこから女神アテネのガイドにより高次元の4大エレメント達の神殿へと向かいました。

女神アテナは、私達を案内しながら、4大エレメントの神殿に関する話をしてくれました。

「私達の宇宙は、4大エレメントのエネルギーを基礎として成り立っています。

この4大エレメントは、創造の光の4つの側面でもあります。

この性格が異なる4つの光が、配分を変えながら交じり合う事によって、様々な創造が行われるのです。

しかし、大犬座に流れ込んでくる4大エレメントのエネルギーが、最近少なくなってきたのです。

4大エレメントの神殿も、波動が落ちてしまって、私達だけでは入れなくなってしまったので、今回TAKESHIさん達にお願いして、この問題を解決してもらいたいのです。」

私達は、女神アテナに案内されて4大エレメントのエネルギーを供給する神殿へと入る事にしました。

確かに、4大エレメントが立ち並んでいる場所は暗く十分な光もささず、活気もありません。

4大エレメントの神殿のマスター達を呼び集めましたが、彼らも元気がないようでした。

私達はマスターから話を聴くことにしました。

「私達は、天の川銀河を創造した創造主によって生み出されたマスターです。

常に4大エレメントのエネルギーが適正に天の川銀河の中に満たされているように配慮するのが私達の務めです。

しかし、過去のオリオン星雲を舞台とした大きな宇宙戦争の影響により、オリオン星雲の 4 大エレメントのマスター達が大変な被害を受けてしまいましたので、私達の仲間は彼等を助ける為に、オリオン座に向かったのですが、彼等は帰ってくる事がありませんでした。私達は、多くの仲間を失ったようです。」

アシュタールのミサンガを中心とする探索部隊が、この近くに大きなブラックホールを見つけました。

「TAKESHI さん、この近くにはとても大きなブラックホールがあります。もしかしたら、今回の事と大きな関連があるかもしれません。調べてみることにしましょう。」

私達は、このようなブラックホールを数回見たことがあります。普通の人達には、他の星々を吸い込んでしまうほどの強力なパワーを持ちますので、大変恐れられているのですが、このブラックホールを突き抜けていくと、異なる場所に出ることもあります。多くの場合、私達が「宇宙の大地」と呼ぶ場所に出ることがあります。

私は、4 大エレメントのマスター達に説明します。  
「マスター達よ、このブラックホールは皆さんが考えているような危険なものではありません。普通の人達は、全ての星々を呑み込んで破壊してしまうようなものとして考えられていますが、ブラックホールは、多くの場合「宇宙の大地」と呼ばれる場所につながる通路もあるのです。」

4 大エレメントのマスターは不思議そうな顔をして「宇宙の大地」とは何かと尋ねます。  
「通常の宇宙は神々により創造されて発展していきませんが、その発展する宇宙の根っこを支えているのが「宇宙の大地」です。つまり、大きくなる樹木は、大地にしっかりと根を張らなければ、樹木の重さで倒れてしまいます。宇宙も樹木と同じです。大きく成長する為には、宇宙の根っこを「宇宙の大地」と呼ばれる場所に、しっかりと張らなければ、宇宙そのものが理想的な発展ができないのです。」

「理想的な発展ができないと、どうなるのですか」とマスターは尋ねます。  
「宇宙が発展し続けると、どこかで限界が来てしまいます。すると宇宙は、自分に合ったサイズの宇宙に戻るために、星々などが破壊されたりしてリセットされます。」

それが銀河や星団規模の戦争であったり天変地異であったりするのです。

しかし、一度リセットした星々や宇宙は、「宇宙の大地」とさらに深いつながりを作り、再び素晴らしい宇宙を創るために発展しはじめるのです。」

4 大エLEMENTのマスターやアシュタールのメンバー達も不思議な話だといわんばかりの顔をしています。

「それで、このブラックホールと私達の仲間達は何か関係があるのですか。」

「それは、わかりませんが、この近くにブラックホールが開いているという事が、私達に対するメッセージなのでしょう。

この中に入って見ましょう。」

「いえ、私達は仕事が忙しいので、」

4 大エLEMENTのマスター達は顔を見合わせて尻込みしています。

「それなら、私だけでも行きましょう。」

マスター達の後ろから、まだ若いマスターが名乗りをあげました。

「私もまだ見習いですが、4大エLEMENTのマスターの1人です。

もし皆さんが、このブラックホールといなくなった4大エLEMENTのマスターが、関係があるというのなら、私は喜んで、皆さんのお供をしましょう。」

私は、この若いマスターを手招きして名前を尋ねました。

「私の名前はエミールと言います。

私の父や兄も、私達の神殿に戻ってくることはありませんでした。

私は、何かの手掛かりがあるのならば、その手がかりを調べてみたいのです。」

私達は、家族思いのエミールの言葉を頼もしく思います。

私は、アシュタール連合のミサンガに向かって尋ねます。

「私の推測では、恐らくこのブラックホールの中に、4大エLEMENTの神殿にかかわるマスター達が、閉じ込められているのではないかと思います。

出来ましたら、このブラックホールの中に入る時は大きな衝撃があるかもしれませんが、アシュタール連合の宇宙船で一緒に行きたいと思いますが、ミサンガさんいかがですか。」

ミサンガは、私達に向かってうなずきます。

「TAKESHIさん、私達にとっても4大エLEMENTのマスター達を救出することはとても大切なことです。

こういう事もあるかと思い、私達の中でも、最も性能が高い宇宙船を準備してありますので、どうぞ乗船ください。」

ミサンガは、通信装置のような物で宇宙船に自分の位置を連絡しているようです。

しばらくすると、巨大ですが非常にスリムな形をした宇宙船が、私達の目の前に現れました。  
「どうぞ皆さん、アシュタール連合が誇るシドレット号にご乗船ください。」  
宇宙の光のメンバー達は、今まで見たこともない素晴らしい宇宙船に乗れるので大興奮のようです。

エレナさんが、私に囁きます。

「この宇宙船は彼の自慢の宇宙船よ、でもこの宇宙でも最高クラスの宇宙船であることは間違いないわ。

しかも操縦の腕は、彼にかなう人は数えるほどしかいないわよ。」

私達は、今回は、宇宙の光のメンバーと騎士団達、そして魔法使い達がシドレット号に乗船します。

シェンロン達は、私達を守るかのようにシドレット号の周りに待機しています。

私達を乗せると、シドレット号は滑るように動きはじめ、ブラックホールへと向かいます。

シェンロン達も、シドレット号の周りをくるくると回りながら共に進みます。

## PART2 ブラックホールに閉じ込められていたマスター達

私達は、ブラックホールと「宇宙の大地」に詳しい、ゴールド・ルシファーを呼び寄せます。  
ゴールド・ルシファーとは、墮天使とされているルシファーのさらに高次の存在にあたるゴッデスの1人です。

彼は、成長する宇宙とその源となる「宇宙の大地」の調整にあたる仕事をしている存在です。  
いつも煌びやかに輝く黄金色の羽を広げて、私達のもとに降り立ちます。

「TAKESHI さん、どうかしましたか。

私を呼ばれるという事は、「宇宙の大地」に関わる問題が起きたという事ですか。」

ゴールド・ルシファーを始めてみる人は、その輝きにまず驚きます。

そして次に、彼が墮天使として活躍していたルシファーの高次の存在だと聞いてさらに驚きます。

「ゴールド・ルシファーよ、今日はあなたに助けてもらいたくてお呼びしました。

実は天の川銀河の4大エレメントのマスター達が、オリオン星雲の大戦争に巻き込まれた仲間達を救うためにオリオン星雲に向かったのですが、そのほとんどのメンバーがいなくなっていました。

私達は、彼等の救出を行いたいのですが、手がかりがなく困っていました。  
その様な時に、このブラックホールが、ぽっかりと空いていたので、何かの手掛かりがある  
のではないかと思い、あなたを呼び寄せたのです。」

ゴールド・ルシファーは、私の話を聴き終わると、シドレット号が入って行ったブラックホールの様子をしばらく調べています。

「なるほど、「宇宙の大地」の親父も、分かり易いことをしますね。」  
と言って笑いだしています。

シドレット号に乗っているメンバー達もゴールド・ルシファーの言葉に、何か安心したらしく一緒に笑っています。

「このブラックホールはまさしく、多くの人々を呑み込んでいます。  
それも以前までは、オリオン星雲にその入り口が開いていたようですが、あなたが見つめ易いように、この場所にぽっかりと口を開けて、あなた方が来る事をまっていたようです。」

「やはりそうでしたか、私もこの中に、多くのマスター達が飲み込まれているのではないかと  
思っているのです。

彼等を探す手助けをしてもらえますか。」

「もちろんですよ。

「宇宙の大地」の親父も、ここにいる人たちを持て余している様なので、早く救出して連れて  
行ってくれと言っていますよ。」

その言葉を聴いて、4大エレメントの見習いスターであるエミールが走り寄ってきます

「このブラックホールに私の父や兄もいるのでしょうか、  
仲間達は元気で生きていますか。  
どうか助けてください、お願いします。」

ゴールド・ルシファーは、急にあらわれた若い少年を見てうなずきます。

「そうか、君の家族がここにいるんだね。  
それなら、君の5感を最大限に使って、自分の家族とコンタクトをとる事だ。  
私達が、彼等を見つける前に、君のハートで家族にコンタクトをとってくれたまえ。」  
エミールは、希望に満ちた瞳でゴールド・ルシファーを見つめてうなずきます。

「さあ、それでは、私達も探すでしょう。」

ゴールド・ルシファーは、宇宙船の船長であるミサングと打ち合わせを始めました。  
どうやら、宇宙船をブラックホールの特定の場所で止めさせます。

「ブラックホールの中は、宇宙船の計器類では、探索することは難しいので、皆さんのシェンロンを借りるとしましょう。

シェンロンの一頭一頭と私の意識をつなげ、シェンロン達にこの宇宙船からあらゆる方向に探索を行ってもらおう事にしましょう。

ゴールド・ルシファーはそうやって運転席の近くにある椅子に腰を下ろすと目を閉じました。するとそれまで宇宙船の周りを取り囲んでいたシェンロン達が一斉に異なる方向に飛んでいきます。

私達は、いくつかのモニターでシェンロン達の飛ぶ姿を見ていましたが、やがてシェンロン達は闇の中に姿を消していきました。

しばらく静寂な時間が過ぎていきます。

誰もしゃべろうとはせずに、シェンロン達が消えていった闇を見つめています。

突然、目を閉じてシェンロンたちの動きに意識を集中していたゴールド・ルシファーが眼を開けます。

「ひとつのグループが見つかりました。

ゴールド・ルシファーは、その場所をミサンガに指示します。

シドレット号は静かに動き出します。

しばらく進むと、私達のシェンロンの一頭が見え始めました。

私達の宇宙船が来ると、シェンロンは私達を案内するように先に進みます。

そしてその先には、ブラックホールを漂っている宇宙船が見えます。

もちろんエンジンも動いていませんし、明かりもついていません。

シドレット号は、その宇宙船を収容しました。

中にいたのは、白い衣装を着て白っぽい光を放っているマスター達です。

メンバーの一人が、4 大エレメントの神殿の上に、白い神殿を見つけていたので、その神殿と関係がある人たちようです。

彼等は気を失っていましたが、シドレット号の医療室で治療を受けると意識を回復してきました。

彼らと話をすると、オリオンを舞台とする宇宙戦争の影響で、多くの仲間たちがこのブラックホールに閉じ込められたので助けに行こうとしたら自分達も閉じ込められてしまったとのこと。

やがて時がたち、光の使者が助けに来ることを待ち望んでいたとのことでした。

私達は、マスター達を回収し終わると、先ほどの位置にまでもどりました。

すると他のシェンロンからも、マスター達が乗っている宇宙船や、彼等が閉じ込められている特別な空間が見つかったことが報告されてきました。

私達は、次々と彼等を救出していきましたが、皆さん、絶望感の中でその心もスピリットも傷ついています。

私達が、助け出したことさえもわからないメンバー達もいるほどです。

彼等は次々と治療室や一般の船室に運び込まれ、アシュタールのメンバーから治療を受けています。

宇宙の光のメンバー達も「生命のしずく」を飲ませたり虹のワンドで光を送っています。魔法使い達も回復魔法を使い、マスター達の意識を目覚めさせようと努力しています。皆さんの努力のおかげで多くのマスター達の意識が戻ってきたようです。

私達のシェンロンも、その多くが戻ってきたようです。

しかし私達と共に来た見習いマスターのエミールが泣きそうな顔をしています。

それを見た遥さんが心配そうに尋ねます。

「エミールさん、大丈夫。

あなたのお父さんとお兄さんは見つかったのかしら。」

エミールは、泣きながら顔を横に振ります。

### PART3 エミールの祈り

私はその様子を見てゴールド・ルシファーに、まだ残っているメンバーがいるようだと告げました。

ゴールド・ルシファーも、それは分かっていたようです。

私にうなずくと、もう一度椅子に座り眼を閉じます。

船の周りにいたシェンロン達が一斉に、ブラックホールの様々な場所へと向かいます。

先ほどよりもさらに長い時間、シェンロン達が探索を続けているようですが、まだ見つかりません。

時間ばかりがどんどん過ぎていきます。

ゴールド・ルシファーが、「もうここには誰もいないかもしれない。」とつぶやきました。

やがてシェンロン達も戻ってきました。

するとエミールは、真剣な顔でゴールド・ルシファーに訴えます。

「きっとお父さんは、この中で生きています。」



あなたが先ほど言ったように、私は自分の5感すべてを使って、父と兄に呼びかけています。そして彼等からのコンタクトを全身で受け止めようと努力しているのです。そうしたら、父の息遣いが聞こえてきたのです。そしてそれは、かすかな声となって、私の名前を呼んだのです。どうか、父と兄はどこかで生きています。お願いします、探してください。」

その言葉を聴いてゴールド・ルシファーはしばらく考えています。そして、座り込んでいるエミールの前に歩み寄りました。

「エミールよ、あなたが言う事は、もっともなことだ。それでは、あなたの心の中に訴えかけてくるお父さんの声をもとにして探してみよう。もう一度しっかり祈って、お父さんの声を心に聴きなさい。」

ゴールド・ルシファーはそのように言うと、エミールの頭に手を乗せ、意識を集中しています。ゴールド・ルシファーは、エミールの意識に入ってくるお父さんのエネルギーを、全てのシェンロンに送っています。

シェンロン達に、そのエネルギーが送られてくる源を探させようとしているようです。何頭かのシェンロン達が同じ方向に一斉に動き始めました。シドレット号もそのあとを追います。シェンロンは、どんどんブラックホールの奥に向かって進んでいきます。いくつもいくつもブラックホールの中に有る壁を通り抜け、まるで迷路のような世界をとりぬけていきます。

すると、その先に壊れかけた宇宙船が何かの空間の中に閉じ込められている様子が、モニターに映し出されました。ユニバーサル魔法使いが、その様子を見て、船を制止するように言いました。「ここには特別な磁場が存在しています。下手にはいると出れなくなりますので、止まってください。」

ミサンガは、船を止め、この空間の事を調べ始めましたが、計測しようとする、宇宙船の計器が異常を起こすようです。ユニバーサル魔法使いは、セントジャーメインやマーリン達と打ち合わせをしているようです。

「これは、特別な魔法を使って作られた空間です。」

その場所にマスター達を幽閉し、外に出さないという事が目的だったようですが、そのままブラックホールの中に飲み込まれたようです。」

魔法使い達は、しばらくの間、いくつもの神聖幾何学や呪文を試していますが、なかなかうまく行かないようです。

「私達の魔法が、ブラックホールの力とひとつになった封印の力を破ることができないようです。

私達の力が、あの宇宙船の中まで届けば、この封印は破れるのですが。」

ユニバーサル魔法使いは悔しそうに言います。

「それでは、私を使ってください。」

エミールが、真剣な顔をしてユニバーサル魔法使いの前に立ちます。

「私は風のエレメントを学んでいます。

風は、どこにでも入って行くことができます。

私が父のもとに入って行きますので、私を使って魔法の力を宇宙船の中に届けてください。」

「エミールよ、君の気持はわかるがこれは危険なことですよ。」

「もちろん、覚悟はしています。

いえ、ここで何もしなければ、私の家族は助かりません。

私は家族を助けたいのです。」

ユニバーサル魔法使いはエミールの肩をたたきうなずきます。

エミールを中心に、魔法使い達が周りを取り囲みます。

「それではエミールよ、お父さんの意識とあなたの意識をつないでください。」

ユニバーサル魔法使いは、エミールの頭上にいくつもの神聖幾何学を描いていきます。

マーリンとサンジェルマン達は、異なる呪文をそれぞれ唱えています。

呪文のエネルギーはいくつもの色の光になって、エミールのハートの中に吸い込まれていきます。

エミールの意識を使って魔法の力が、宇宙船の中にいるお父さんの意識へと流れ込んでいるようです。

私達も、魔法使い達の仕事を見つめています。

やがて、宇宙船を映したモニターに変化が現れてきました。

宇宙船の内側から、白銀の光が輝きだし、一瞬にして宇宙船の外側を包み込みます。

すると宇宙船を取り囲んでいた磁場が、轟音と共に飛び散っていきました。

その瞬間、エミールがばったりと倒れました。

ユニバーサル魔法使いは、エミールを抱きかかえ、癒し系の呪文を唱えました。  
まだ大人になりきれていないエミールにとっては、想像を絶するほどの大きなエネルギーを受け止めなければならなかったようです。

エミールはしばらくの間、意識が戻りませんでした。  
しかし、彼の勇敢な姿は、ブラックホールから救出された仲間達も見ていた事でしょう。  
多くのマスター達が、医療室に運ばれていくエミールに、感謝の言葉を投げかけています。

私達はすぐに船の救出を行いました。  
シドレット号にこの船も取り込まれ、救助班が向かいます。  
この船に乗っていた多く者達が意識を失ったままですが、長老と思われる人が1人のみ、座り込んでいました。  
もしかしたら、彼がエミールのお父さんかも知れません。

彼は、私達を見ると尋ねました。  
「私の息子であるエミールがいるのですか、  
私の心の中に、エミールの声があったので、私は目覚めたのです。  
私は、エミールの声に呼び寄せられるように感じていたのです。  
そしたら、突然大きな光が、私の胸の中に飛び込んできて、周りが光で満たされ大きな爆発が起きました。  
一体私達は、どうなったのですか。」

私は長老の手を握り、「あなた方はエミールによって助けられたのです。」  
私は医療班に、長老をエミールの隣のベッドで休んでもらうように指示を出しました。

## PART4 宇宙を安定させる力と宇宙を成長させる力

私達は巨大なブラックホールの中を通り抜け、宇宙の大地へとたどり着きます。  
ブラックホールは、私達の宇宙とその宇宙を支える大地とをつなぐ大切な通路です。  
しかし宇宙の大地は、多くの存在達にとって隠された神聖な場所なので、そこにたどり着くためには大変な勇気と能力が必要とされるのです。

私達は「宇宙の大地」飛ばれる場所に入ってきました。  
ここにあるのは、美しい木立と透き通るばかりの海です。  
建物など何一つとして無く、人も住んでいません。  
ただ、ただ、美しく静寂な世界だけがひろがっています。

私達は、シドレット号で宇宙の大地に降り立ちマスターを呼び出します。  
助け出された4大エレメントのマスター達も、一緒に降り立ちます。  
彼等は、ここがどこなのか見当もつかないようでおどおどしています。  
中には自分はやはり死んだんだと、ため息をついている者もいるようです。

「宇宙の大地」のマスターが私達の前に現われます。  
いつも尊厳に満ちたマスターですが、今日は少し笑顔で私達を迎えてくれています。  
きっと「宇宙の大地」のマスターも4大エレメントのマスター達の事を気遣っていたのかも  
しれません。

助け出されたメンバー達も、大地のマスターの話を静かに聞いています。  
「皆さんがブラックホールから助け出されることを私もとても喜んでおります。  
あのブラックホールは、オリオン星雲の大戦争を終結させるためにつくられたブラックホ  
ールでした。  
オリオン星雲は、愛と協調を忘れ、お互い争ってしまったために、この「宇宙の大地」が支  
えることができなくなり、その発展を一部リセットしなければならなくなったのです。

あのブラックホールは、オリオン星雲の一部をリセットするために、破壊された星々などを  
呑み込んでいったのです。  
しかし、その時、天の川銀河からやってきたあなた方を間違えて呑み込んでしまいました。  
これは、私達が予期していなかったことですので、皆さんはブラックホールの中に残され、  
助けが来ることを私達は待っていたのです。」

その時ゴールド・ルシファーが笑いながら言いました。  
「そういう事だと思ったよ、天の川銀河の人達にとっては災難なことだったけれどね。」  
「宇宙の大地」のマスターも苦笑いです。  
「まあ、ブラックホールの中にまで入り込んで、皆さんたちを助ける事ができるとは、思っ  
てもいなかったのですが、TAKESHIさん達だったら出来るかなと思い、目につきやすいと  
ころにブラックホールの入り口を開いておきました。」

4大エレメントのマスター達も、これで自分達の身に起こった事が理解できたようです。  
長老が口を開きます。  
「宇宙の中にも、まだまだ私達の知らない事があるようです。  
大地の長老様、そして黄金の羽を持つ偉大なる天使様、アシュタール連合の皆様、そして  
TAKESHIさんと宇宙の光の皆さん、私達を助けていただいて本当にありがとうございます。  
私達は、もうすでにブラックホールの中で死を覚悟していましたので、新しく生まれ変わっ  
たような気分です。

私達は確かに辛い思いをしましたが、私はこの体験に感謝しております。」

そういうと長老は、横にいたエミールの肩を抱き涙を流しています。  
助け出されたマスター達も、口々に感謝の言葉を述べ、涙ぐんでいます。

私達は、この宇宙の大地の存在と働きをよく理解して、宇宙の大地の安定の上に成長していく宇宙を作り上げていかなければなりません。

私達は、「宇宙の大地」のマスターの光と彼らのハートを光でつなぎ、彼らの内的なエネルギーにもバランスと安定をもたらします。

これで彼らも、宇宙の大地の安定の力と、自分達の宇宙を成長させていく力を繋ぎ合わせ理想的な宇宙を作り出していく事が出来るようになることでしょう。

私達は、助け出された存在達と大地のマスターと共に、宇宙の協調を作り出すために、共に祈る事にしました。

大きな光が大地から沸き起こり、私達を包み、周りに広がっていきます。

その光は、この宇宙の大地からどんどん広がり、やがて天の川銀河全体を光りで包み、さらに広がっていきます。

## PART5 大犬座のエレメントの神殿から高次の世界へ

私達は、ブラックホールで助け出されたメンバー達を連れて、再び大犬座のエレメントの神殿へと戻ります。

メンバーたちの事を心配して待っていたマスター達も大喜びで彼らを迎えています。

長老を始め多くのマスター達が無事に戻ってきたことに驚いてさえいるようです。

彼等が戻ってくることにより、エレメントの神殿が活気づき光に満ちあふれてきます。

私達は、さらにエレメントの神殿の上に位置する白い塔へと入り、白い光を持つ人々を塔に戻します。

そこには、塔を守護するマスターが待っています。

彼がこの白い塔の役割について話してくれます。

「今回皆さんが、私達の大切なメンバーを助けだし、連れて帰ってきてくれた事に大変な喜びを感じています。

彼らが戻ることにより、天の川銀河の4大エレメントの力もさらに高まり、素晴らしい銀河となる事でしょう。

私達白の塔は、4 大エLEMENTを見守り、バランスを取るだけでなく、この宇宙の秩序を保ち成長を司る塔なのです。

これからも皆さんと共に、働きたいと思っております。」

この白い塔の広間の後ろには、大きな扉が開いており、マスターはさらに上の次元に行きましょうと、私達を導いてくれます。

扉の奥には馬車が待っていて、ブラックホールで助け出されたメンバーをそこに乗せてあげます。

私達も馬車と共に、さらに高次の世界へと入っていきます。

光に導かれていくと、最初に黒い塔がありそこを抜けるとまぶしく輝く光の塔がそびえたっています。

その光の塔の中に入ると広間の中央に神聖な光をまとったマスターが座っています。

「私達は皆さんを待っていました。

次元の扉を開いてくださって大変ありがとうございます。

私達の光が、今まで以上にこの銀河へと広がっていきます。」

私達はここで、傷ついたメンバーたちを馬車からおろし、この世界のマスター達の光をしっかりと彼らに満たしていくとともに、4 大エLEMENTの神殿まで光の柱を立てていきます。宇宙の大地の光、4 大エLEMENTの光、高次のマスターの光が一つに溶け合っていきます。

## PART6 多次元宇宙の評議会

私達は、この光の塔の後ろにある扉を開きさらに光に導かれて次元を上がっていきます。

そこには大きな光に満ちた神殿があり、まるで光のドームの様にも見えます。

アシュタールのミサンガが、そこに集まっているのはこの宇宙を守護し運営しているマスター達であると、私達に教えてくれました。

私達の前にはひととき大きな光のマスターが立たれ私達を迎えてくれます。

彼の周りには幾名かのマスターがいらっしゃるようですが、さすがに光のレベルが今までとは各段に異なることはわかります。

私達には、皆さんの姿が、光にみちあふれはつきりとは見えないようです。

ただ数名の方は、見覚えがあるマスターもいます。

ライト・ボディの神殿からさらに上がった上の次元にいらした「キング・オブ・サン」「クイーン・オブ・ムーン」たちや「マルチバティック・マスター」です。

マルチバティック・マスターが、ここに集まっていらっしゃるメンバーを紹介してくれました。一人は、アシュタールのグループを統括しているマスターでこの多次元宇宙の叡智ある存在達を導く働きをしているようです。

ミサンガやエレーナとはもちろん仲が良いようです。

次のマスターは、この宇宙が成長するエネルギーや宇宙のためのワンネスを広げていくマスターで神聖なる愛の女神とも深い関係にあるようです。

そしてもう一人、「ブラック・マスター」と呼ばれている方で、銀河や星達の役割が終わるとその世界や次元を封鎖したり消滅させたりすることができるマスターです。

それぞれのマスターが、私達が多次元宇宙で出会った神聖なる存在達とも深く関係しているマスター達のように、お互いが協力しあってこの宇宙を運営しているようです。

私達は、この評議会のメンバーと共に祈り、光を宇宙全体に送らせていただきました。

今夜の星のツアーはこれでおしまいです。

ブラックホールでのマスター達の救出はさすがに疲れましたが、そのあとに行った最高評議会の光は本当にすばらしかったです

## 第8章 ユニバーサル・パレスの誕生



### PART1 ユニバースの最高次元に作られる神殿

今朝は理恵さんとの個人アチューメントでしたが、私達にとって忘れられない事が起こりました。

私達が、創造主の神殿に入ると、アディティーヤ様たちも「すごいことが起こるわよ」とニコニコしています。

「皆さんはこれからもっと新しい世界に飛び出していかなければならないのです。」

私には何が起こるのかさっぱり見当もつかないのですが、最近この創造主の神殿が狭く感じられてきたので、もっと大きな場所を作る必要を感じていました。

また、さらに高い次元のマスターたちも来てくれるようになったのですが、天の川銀河の中にある神殿では少し不便なようです。

私は、思い切ってもっと高い次元に私達の神殿をつくる必要があるか、アディティーヤ様に尋ねてみました。

アディティーヤ様は、もちろんと言わんばかりに、にっこりと笑います。



「皆さんは、さらに高い世界に、皆さんが活動する為の神殿を作るべきなのです。そして、天の川銀河だけでなくアンドロメダ銀河やオリオン星雲などを含めたより広い宇宙のマスター達と協力し合って、この宇宙（ユニバース）の中心的な活動を担うための場所を作る必要があるのです。」

私は、グレート・ゴッデスであるイエス様やマリア様にもお尋ねしましたが、彼等も同じような考えのようです。

それではどこに神殿を作ったらよいかと相談を行うと、この単一宇宙（ユニバース）の最高次元、グレート・ゴッデス達がいる次元で、様々な銀河や星団から、代表的なマスター達が自由に来ることができるような場所に作ることにしました。

私達が言う単一宇宙（ユニバース）とは人類が観測可能な宇宙のことを言います。主にメシエ天体などと呼ばれている銀河や星団などによって構成されている宇宙のことです。それは、天の川銀河だけでなくマゼラン星雲やアンドロメダ銀河などで構成される局部銀河を含んだ宇宙です。宇宙は更にさらにオリオン星雲や他の銀河、星団を含み大きな集合体を作っています。

この宇宙の外に出ると、同じような宇宙がたくさん集まっている多次元宇宙(マルチバース)に入ります。

私達はすでにマルチバースのマスターたちとも深い関係を持っていますが、この次元のマスターたちは、私達のユニバースをはじめ、いくつもの宇宙の統治を行っています。

現在のところ私達の活動は、このユニバースに限られていますので、このユニバースに属する多くの銀河や星団のマスター達が集まることのできるような場所をユニバースの最高次元に作ってほしいとのことでした。

私達は、ユニバースの最高次元にいるユニバーサル魔法使や多くのゴッデス、女神達、多くの銀河や星団を統治するマスター達と、新しい神殿の仕組みについて相談しました。

彼らは、「宇宙の光」の活動がとて大きくなり、このユニバースにとってはなくてはならないものになってきたので、新たな神殿を作る時期が来た事、そして私達の活動にアシュタールのメンバーをはじめ、多くの銀河や星団のマスター達も参加してくるので、彼らが働きやすい神殿と仕組みを作ってほしいとのことでした。

私達は、アンドロメダ銀河のマスター、オリオン星雲のマスター達とも相談して、協力して大きな神殿を作ることにしました。

私達と共に活動しているマスターや騎士団達、そして協力関係にあるマスター達が、偉大なるマスター達に導かれて大空に向かって一斉に飛び立ちます。

そして、創造主達の力によって、ユニバースの最高次元に巨大な空間が生まれ、そこに大きな神殿群が生まれ始めます。

マスターと騎士団達が大きな光を放ちながら、様々なタイプの神殿を作るために一生懸命に働いています。

巨大な空間の中央には、ユニバースのマスターや騎士団、そしてゴッデス達が共に集まって会議ができるような大きな会議場が作られます。

そして会議場を取り囲むように、ゴッデス達の神殿やアシュタール連合の建物、宇宙の様々なレベルにおける魔法使い達や騎士団達をまとめる為の建物などが、たてられていきます。

中には、宇宙の様々な情報が集められた図書館もあるようです。

またこれらの神殿の周りには、ユニバースに属する各銀河や星団の神殿も作られるようです。

## PART2 ユニバースの代表者たちの会議場 ユニバーサル・パレス

多くの神殿や図書館が、中央にある会議場であるユニバーサル・パレスを取り囲むようにして立っています。

そしてその周りには美しい森も見えています。

私はこの自然と美しい建物達が融合した都市をユニバーサル・シティと名付けました。

私達が、いつもでは入りするのは、中央にある「ユニバーサル・パレス」と呼ばれる会議場です。

まるで荘厳な光をたたえた「タジマホール」のような宮殿です。

ユニバーサル・パレスの中に入ると、メインの広間は巨大アリーナのコンサート会場のようにしており、椅子席も3階まであります。

会議場の中央部は、周りよりも床が高く作られており、周りの椅子席のどこからでも見えるような作りになっています。

中央部には、メインテーブルが置かれており、大きめの椅子が30脚近く並べてあります。

私もそのテーブルに並べてある30席の一つに座ります。

私の後ろには、中央部を降りたところに宇宙の光のメンバーやマスターたちの席があります。メインテーブルには、このユニバースを統治する各系列のマスターやゴッド、アシュタール達の席が準備されており、ここでメインの話し合いが行われるようです。

この中央部を取り囲むように、1階の座席が並べられており、そこは、ユニバースに属する銀河や星団などの代表者たちが座る席です。

おそらく 500 から 1000 くらいの席があるようです。

このパレスが作られるとともに、すでに多くの銀河や星団を代表するマスター達や大切な働きをする星々のマスター達がこのパレスに集まってきています。

2階は、代表者以外のマスターや重要な星々のマスター、この宇宙の運営にかかわるマスターたちが座る席があります。

その近くには、天使やフェアリーたちが座るエンジェルシートも作られました。

さすがにドラゴンたちは、中に入れないのでマスターだけ姿を変えてドラゴンシートに座ります。

3階席には、銀河や星団を守る騎士団の団長や魔法使い、そのほかの存在達が座ることになります。

私達の騎士団の団長たちも数名この場所に座っているようです。

しばらくするとこのパレスが、様々な種族でいっぱいになってきました。

私達が名前も知らないような銀河や星団からも多くのマスターたちが集まってきて、パレスの完成を待っているようです。

まるで、スターウォーズの銀河連合の会議室のようです。

このユニバーサル・シティの運営は、グレート・ゴッデスや銀河や星団の代表的なマスター達によって行われます。

私は、時を見計らって立ち上がり、集まってくれた各銀河や星団のマスターたちの挨拶を行います。

「私達が、ここに集まったのは、このユニバースの平和と安定的な成長のためです。

私達を見守る多くのマスターや神々の光を受け取り、共にこの宇宙と自分達の星々のために力を合わせましょう。」

多くの銀河の代表者たちが、席を立ちあがって手をたたいたり光を輝かせたりしています。

私は、このパレスにグレート・ゴッデス達の光を呼び込みます。

彼等の光は、とても次元が高い光ですので、ユニバースの全員にとって自らを癒し成長させる光となります。

またその光を自分達が属する銀河や星団につなげることによって、自分達の星をドンドン進化させることができます。

神聖なる天使たちの光も、パレスに呼び込みます。

ユニバーサル・エンジェルたちの光が、軽やかにパレスの中に満ち溢れていきます。

羽をもった偉大な存在達の光がパレスの中に満ちていくと、私達の心は深く癒され落ち着いてきます。

私達の心を解き放ち、一つにつなげてくれる優しい光です。

パレスが虹色に輝くととても大きな光で満たされていきます。

パレスに集まっている多くのマスター達と共鳴しその光はさらに強くなります。

マスター達も、1人1人の光が大きく輝き始め、光と深くつながっていく様子は、まさに光の饗宴という感じです。

私達は、ユニバーサル・パレスに満ち溢れる光のすごさにきっと何か秘密があるのだと思い、パレスの上へとあがります。

するとパレスの天井の上にもう一つ大きな部屋があり、そこに大きなクリスタルが置いてあります。

そのクリスタルにゴッデス達の光が当たると、その光はクリスタルの中に吸い込まれ増幅されて下の会議場に降りて行きます。

クリスタルはとても輝かしく澄み渡っていて純度が高いクリスタルです。

このクリスタルによって、パレスの光もさらに高められています。

ユニバーサル・パレスの丸い屋根の中に、この大きなクリスタルが収納されている感じです。

そしてこのクリスタルから、ユニバーサル・シティの各神殿へも光がつながり、このシティに一体感をもたらしています。

私達は、ゴッデス達に、このパレスから多くの銀河や星々に光を送る装置を作る必要がある事を指示されました。

私達は、今度はユニバーサル・パレスの下に降りていきます。

ユニバーサル・パレスの下にも新たな空間を生みだし、そこに各銀河や星団に光を送るための神殿と大きなマザー・クリスタルを備えます。

そして各銀河や星団の代表者達に、自分達の銀河や星々とこの神殿のクリスタルに光をつないでもらいます。

この神殿と光を送るシステムは、この星のツアーを行う前に行った個人アチューメントの時に、私達の前に姿を現したマスター・リングが担当することになりました。

マスター・リングは、様々な光を統合し、それを束ねて活性化すると共に、相手に合わせて最適な光に変換することができるマスターです。

最初に彼が出てきたときは、どのように使えばよいのかと考えたのですが、きっとこのユニバーサル・パレスが作られ、各銀河や星々に光をおくる装置が必要になることをわかっていて、私達の前に現れたようです。

マスター・リングもこの星々に光りを送る装置の担当者に任命されて満足げです。

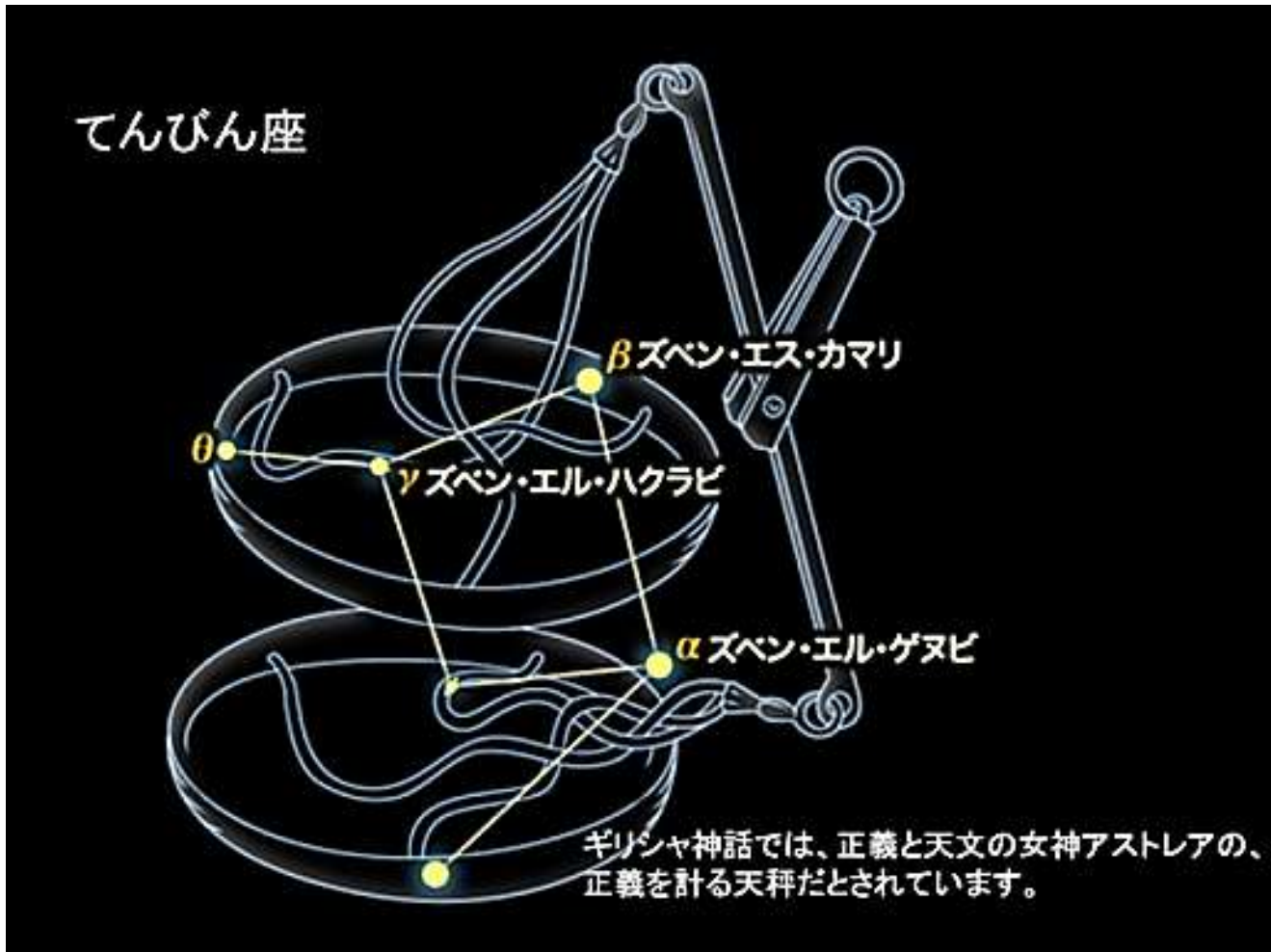
私達はさらに、この単一宇宙（ユニバース）を守るために、各銀河や星団などの代表的な騎士団にも集まってもらいました。

このユニバーサル・シティを守るとともに単一宇宙（ユニバース）全体の守護を行うための連合部隊を作る予定です。

ここは天の川銀河のアウディケウス、アンドロメダ銀河の騎士団、オリオン星雲の騎士団にその仕事を任せました。

このユニバーサル・パレスが生れる事により、私達の活動は飛躍的に広がるとともに、地球と天の川銀河がさらに素晴らしい世界へ進化していくことを助けることができるようになります。

## 第9章 時と空間のエネルギーを生み出すてんびん座



### PART1 時と空間のエネルギーを送り込むてんびん座

私達は、ユニバーサル・パレスが生まれた後に、さらに天の川銀河の問題を解決するために旅に出ます。

大犬座を回り終わり、私達は、自分達がライト・ボディに移り変わるための光もたくさん得ることができました。

今回から、新たな旅が始まります。

それは、おとめ座の女神達からのお願いでした。

てんびん座は、おとめ座のすぐ下にあり、おとめ座のもととなった女神アストレイヤーが人類の罪深さと善良さを図るために用いた天秤であるという言い伝えもあります。

私達は騎士団や魔法使い達を伴って、ユニバーサル・パレスからてんびん座の「ズベン・エス・カマリ」という星に降り立ちました。

私達が、星に着いたことを知ると、すぐにマスターがやってきて、私達を嬉しそうに迎えてくれました。

マスターは、私達を小さいけれどとてもきれいなクリスタルで飾られた神殿へと案内してくれました。

ズベン・エス・カマリ星の神殿には、このてんびん座の王と王女が椅子に座って、私達を待っています。

しかし、皆さん元気がありません、きっと何か深刻な悩みがあるようです。

王様が私達に語りかけます。

「先ずあなた方にお会いできたことを、神からの恵みとして感謝させていただきます。

このてんびん座は、以前は、すべての星々が協力し合って、素晴らしい安定と平和を享受していました。

てんびん座の役割は、おとめ座や牛飼い座などから送られてきたエネルギーを集め、星々に必要な時と空間を作り出すエネルギーをそれぞれの星に送ってきました。

しかしながら、ある時、他の星から来た生命体によって、人々の心がまどわされ争いや奪い合いが起こるようになったのです。

善良で優しくかった人々が、人が変わったように争いはじめ、自分達が行うべき仕事を投げ出してしまいました。

特にズベン・エル・ハクラビ星とズベン・エル・ゲヌビ星の人たちは、特にひどく、自分達の星の中で争うだけでなく、周りの星々を侵略し破壊し始めたのです。

そして突然、私達の星座は闇に包まれました。

多くの星の人達がいなくなり、星は重たいエネルギーに包まれたままです。

かろうじて、このカマリ星だけは、無事に過ごしていますが、今となっては、私達も昔のように、星々に光を送ることができなくなってしまいました。」

私は、王様と女王様がとても大きな苦しみの中で、長い時間を過ごしてきたことがよくわかります。

私は王様に「私達が来たのは、このてんびん座を昔のようなすばらしい星座に戻すためです。どうか、元気を取り戻してこのてんびん座を再生しましょう。」と慰めます。

王様は、とても喜んで私達に笑顔を向けます。

私は、てんびん座の騎士団を呼び出します。

騎士団の団長が現れますが、彼も元気がなさそうです、きっと多くの仲間たちを失ったのでしょう。

私達は、このてんびん座の星々を覆うように光のマカバを作ることマスタ―や騎士団、魔法使いに指示しました。

始めは、ズベン・エル・ハクラビ星とズベン・エル・ゲヌビ星を光で浄化していきましょう。魔法使い達は協力して神聖幾何学を2つの星に描いていきます。

騎士団達とマスタ―、女神達は分かれて光を送り、2つの星に光を満たします。シェンロンたちは、光のマカバの中に入り星を浄化するための光を送ります。

私はペガサス騎士団、わし座騎士団にそれぞれの星の偵察を頼みました。

その間、私はグレート・ゴッデス達と話をすることにしました。

私は、グレート・イエスとグレート・マリアに来てもらい、てんびん座の惨状を見てもらいました。

「確かに、てんびん座の星々は大変な被害を受けていますが、事情を聞いたところ、星の人々の行動に大きな問題があるようです。

おそらく、これは、他の星々を侵略しないようにという懲罰的な行いでもあると思いますので、すぐに確認してきます。」

そうやってイエスたちは消えていきました。

しばらくするとグレート・オニクスが私達の前に現われてきました。

彼は一人のマスタ―か創造主を連れてきます。

「TAKESHIさんお久しぶりですね、ユニバーサル・パレスも出来上がり、これからさらに活動を広げられることをゴッデス達も喜んでます。

このてんびん座の事は、私達でも話題になっていました。

そしてある時、てんびん座のマスタ―が、このままではてんびん座が墮落して取り返しがつかなくなるという事を、私に相談してきたのです。」

グレート・オニクスが連れてきたマスタ―達は、てんびん座の王様たちや各星々のマスタ―を指導する役目を持ったマスタ―のようです。

「私は、てんびん座が、創造主の光を使って、星々の時と空間を創造する仕事をしておりましたが、非常に勤勉であったハクラビ星とゲヌビ星の人々は、ある時からその心を操られ、自らの仕事を忘れ、破壊的な行動に走り始めたのです。

このままでは、創造主の光を破壊的なことのために使用したり、大切な時と空間をつくるためのシステムも破壊しかねないと思い、オニクス様に相談に行きました。

オニクス様は、私の願いを聞いてくださり、黒い光によってそれぞれの星を封印してくださりましたので、星の人々は、これ以上破壊行為を行う事はなくなりました。

そしてこのてんびん座も、再びバランスを取り戻すまでは、その働きを行えないようにしました。



それほど、彼らの暴走は、他の星にとっても脅威だったのです」

「そうですか、私も事情が分かりました。

しかしこのままでは、このてんびん座が持つ大切な働きが失われたままですが、良いのですか。」

「いえ、実はそれで困っているのです。

本来なら、彼等を反省させ、この仕事に戻したいのですが、私達も、それぞれの星にはいる事も出来ませんし、彼等が今、どうしているのかもわかりません。

オニクス様に相談すると、そろそろ助けが来る頃だから、待っていればよい、とお答えになるだけなので、」

「私達が、てんびん座に来たのはそういう事だったのですね。

グレート・オニクス様、彼等を助け出す仕事を私達はすればよいのですか。」

「TAKESHI さん、そういう事になりますね、

ただ一つだけ気をつけてください。

彼等が本心で反省し、やり直そうと真剣に考えているか、確認してください。

もし彼等が同じ間違いを繰り返したなら、今度は、彼等だけでなく星ごと消えてもらう事になるでしょう。

その時は、もう2度と戻ってこれなくなります。」

その話を聴いていたてんびん座の王様も、その様な事情があったとは知らず驚いています。

「偉大なる神よ、お許してください。

私どもが、しっかりと星の民達を導くことができなかつたばかりに、多くの人々に迷惑をかけてしまいました。

どうか星の人々をお救いください。」

グレート・オニクスは王様を厳しい目で見つめます。

「私は墮落した人々は、たとえマスターであろうと王であろうと厳しく扱います。

2度とこのような事がないようにしないと、次はあなたも一緒に闇の中に閉じ込めますよ。」

王様は、その言葉に震え上がっています。

「それに人々を救うのは私の役目じゃない、彼等に頼みなさい。」と行って消えていきました。

王様は、今度はすぎるような目を私達に向けてきます。

そこに偵察隊が戻ってきました。

## PART2 ブラックホールに閉じ込められた人々

わし座騎士団のビジョンが私達に報告してくれました。

「ゲヌビ星もハクラビ星も、もともとは木立や森などもある星だったようですが、現在は自然も荒れ果て、枯れた植物が目立ちます。

星の中には、叡智を持った生命達が文明を維持することができないレベルとなっています。もちろん人々が作った建物も廃墟のようになっており、人はいないわけではないのですが、非常に原始的な生活に戻っているような感じです。

私達が星に入る前に、この星を覆っている重たいエネルギーを浄化しなければいけないと思います。」

私は、わし座の騎士団とペガサス騎士団にお礼を言いました。

「偵察に行ってくれてご苦労でした。

今回の事は、グレート・オニキスが、てんびん座のマスターにお願いされて行なった事のようにです。」

「そうだったのですね、実はこの2つの星の中間あたりにブラックホールのような物が見えたので、もしかしたら創造主達が絡んでいるのではないかと考えていたのです。」

「ブラックホールか、もしかしたら、この件は「宇宙の大地」のマスターも絡んでいるかも知れませんか、

てんびん座の人々は、その中にいる可能性が強いでしょう。

エレナさん、申し訳ないのですが、ミサンガの宇宙船を借りることはできませんか、ブラックホールの中に入ってみたいのです。」

エレナさんも、私達とオニキスたちの会話を聞いていて創造主が絡んでいることに気づいていたようです。

「TAKESHIさん、もちろんです、ミサンガにすぐ連絡しましょう。

彼は冒険好きなので、宇宙の大地に行ったことやゴールド・ルシファーの事をみんなに話していましたよ。

きっと飛んでくると思います。」

私は、ミサンガが到着する間に、ゴールド・ルシファーを呼び出し、今回も手伝ってもらう事にしました。

私は、てんびん座の王様とマスターを呼んで話をします。

「てんびん座の王様、そしてマスターよ。

私達は、ブラックホールの中に入り、てんびん座の星々の人々を助け出すこともできますが、彼らは再びこの仕事に戻すことが可能ですか？

グレート・オニキスが言った通り、彼等が本心から反省していないと、今回よりもっと大変な事になりますよ。」と尋ねました。

王様もマスターは、ぜひ彼らを戻し更生させることで、このてんびん座の働きをもとに戻したいと伝えてきました。

それでは、ミサンガの宇宙船もゴールド・ルシファーも到着したようです。

私達は、ミサンガの宇宙船に乗り込み、ブラックホールに向けて出発します。

私達は「宇宙の光」の仲間に加え、てんびん座の王様とマスターを伴ってブラックホールに入っていました。

ゴールド・ルシファーとアシュタールのミサンガは、前回の大犬座の4大エLEMENTのマスター達を探すためにブラックホールと一緒に入りましたので、お互いの事をすこしは理解し合っているようです。

今日は、2人そろって話をしながら、宇宙船を進めています。

もちろん、ミサンガの宇宙船の周りを、私達のシェンロンが取り囲むように一緒に進んでいきます。

今回入ったブラックホールは、所々に廃墟になったような建物やへし折れた樹木などが浮かんでいます。

規模は、前回のブラックホールの方がはるかに大きいのですが、こちらのブラックホールは、星にあった建物や森などもそのまま呑み込んでいるようですので、宇宙船も障害物に気をつけながら進まないといけません。

ミサンガは、探索ように小型の宇宙船も準備しておくように部下に指示を出しています。

前回と同じようにある地点まで来ると、ゴールド・ルシファーが意識を集中し、シェンロンの意識とつながっていきます。

シェンロン達が同時に、いくつかの方向に別れて走り始めました。

しばらくシェンロン達の探索が続きます。

ゴールド・ルシファーにシェンロンからの連絡が入ったようです。

ゴールド・ルシファーはミサンガに方向と距離を指示しています。

しかし、ある程度進むと大型の宇宙船では難しいようですので、小型の宇宙船に乗り換えて、ミサンガと宇宙船のクルーが、指示された場所に行きました。

宇宙船のモニターで見ていると、そこは廃墟となった神殿のような場所です。

ブラックホールの中にぽっかりと浮かんだ廃墟は、透明な空気の層のような物で覆われ、守られているようです。

きっとこれも「宇宙の大地」のマスターが、彼等を守るためにしてくれたことでしょう。

私達は、廃墟の中に入って行きます。

すると廃墟の中に、一塊の人達が身を寄せ合って震えています。

確かに寒い場所ですが、それよりも押し寄せる恐怖に身を震わせているようです。

彼等は、ゲヌビ星の人達のようにです。

私は彼らに問いかけます。

「あなた方は、自分の欲望に負けて、自らの仕事を放棄し、多くの人達を傷付けたことを反省し、2度と同じ過ちを犯さないと私達に約束できますか。

約束できるならば、あなた方を救いだし、てんびん座に戻すことができますが、どうしますか。」

ブラックホールに閉じ込められたメンバーは、今にも泣きだしそうな顔で懇願します。

「私達が間違っていました。

私達は2度と同じ過ちを繰り返さないことを誓いますので、助けてください。

自分達の欲望に気がとられ、多くの人達を傷付けたり星々を破壊してしまった事を、毎日のように夢に見ます。

そのたびに、私達は気が狂いそうになり後悔の涙を浮かべているのです。

私達は、決して同じ過ちを繰り返しません。」

一緒にいる者達も、同じように私達に懇願してきます。

私達は、小型の救助船に彼等を乗せて、シドレット号に戻ってきました。

救助された人々は、体も痩せこけて寒さに震えていました。

すぐに温かい食べ物と毛布が与えられました。

彼等は、周りを見渡し、自分達が助かったことが不思議でたまらないという顔をしています。

私達はさらにブラックホールの中を進みます。

次のグループはとても大きなグループです。

どうやらハクラビ星のマスターたちのようです。

彼等は、大きな森のように見える場所で逃げ惑っています。

小型の宇宙船で、森の入口に入ると、たくさんの人達が、私達の周りに集まってきます。

「どうか私達を助け出してください。

私達は、他の星を侵略するために、この森の中に降り立ったのですが、この星の人達に反対に追い詰められて苦しんでいるのです。

殺されたかと思うと、次の日にはまた生き返り、再び追い詰められて殺されてしまうのです。

私達は、何10年も、毎日毎日殺されている気がします。

もう殺される事も殺す事もしたくないのです。

どうか助けてください。」

彼等の話にあシュタールのメンバーも面喰っています。

彼等はどうか、自分達が行った事を逆の立場になり、何度も何度も体験しているようです。そして自分達が行った事の悲惨さを、自分の身で経験しているようです。

私は、先ほどと同じように、彼等に問いかけます。

「あなた方は、自分の欲望に負けて、自らの仕事を放棄し、多くの人達や星を傷付けましたね。

それを真剣に反省していますか、2度と同じ過ちを犯さないで私達に約束できますか。

約束できるならば、あなた方をこの森から救いだし、てんびん座に戻す事ができますが、どうしますか。」

ハクラビ星の人は傷つき果てた顔で答えます。

「私達は、ここで地獄を味わいました。

しかし、その地獄は、私達自身が、他の星の人々に味あわせたものでした。

私達は、その辛さを身を持って知りました。

私達は、2度と同じ過ちを繰り返しません。

どうか信じてください。」

ハクラビ星の人達は、顔を手で覆って懇願します。

私達は、彼らを小型宇宙船に乗せ、シドレット号に戻ってきました。

彼等は精神的にだいぶ参っているようです。

シドレット号で休んでもらっている間に癒しの天使達に、彼らの心を癒してもらいましょう。

私達は更に探索を続け、後2つのグループも助け出しました。

ひとつはゲヌビ星の別のグループ、そしてもう一つは他の星のグループでした。

私達は、ブラックホールを抜けて、宇宙の大地へと向かう事にしました。

私は、彼等の状態を見て不振い思い、ゴールド・ルシファーに尋ねます。

「彼等は、罪の意識から幻想を見ていたようですが、こういう事ってあるのですか。」

ゴールド・ルシファーは、涼しそうな顔をして言います。

「今回の件は、特にグレート・オニキスが関わっていますから、墮落した人々を更生させるのは、彼の役目です。

同じ罪を起こさないように、自分達が行ったことの恐ろしさをしっかりと教え込んだのだと思いますよ。」

確かにそうですね、彼等が行った事は大変罪深い事ですから、相当厳しい処置をしないと、自分の心を変える事はできないでしょうね。

これは、ある意味、「闇の渦巻」と同じような性質の物かもしれません。

私達は、しばらくすると、ブラックホールを抜け、「宇宙の大地」に降り立ちます。  
助け出されたメンバーたちは、ブラックホールの先にこのような美しい世界がある事を知って驚いています。

私は、この宇宙の大地は、皆さん方の宇宙の成長を支えるものであり、とても大切に神聖な場所である事を彼らに伝えました。

そこに少し厳しい顔をした「宇宙の大地」のマスターが現われました。

「宇宙の大地」のマスターは、今回救助された人々やてんびん座の王様たちを呼び寄せました。

「ここは「宇宙の大地」と呼ばれる場所です。

もし皆さんが、TAKESHI さん達に助けられなかったら、皆さんは肉体を捨ててスピリットとしてこの世界に来る事になったでしょう。

しかし、幸いにも皆さんは、助け出されました。

その理由が分かりますか、皆さんは自分達が行なった事の愚かさに気づいたからです。

私達は、皆さんが理性を失い、自分達の大切な仕事を放りだして、争いに明け暮れる様子を見ていました。

そして同じ星の人を傷つけたり、他の星を侵略するような行為をおこなったために、宇宙のバランスが大きく崩れてしまいました。

その暴走を止めるために、グレート・ゴッデスと私が協力して、皆さんをブラックホールの中に閉じ込めたのです。」

てんびん座の人々に動揺が走ります。

「皆さんをこのままにしておくと、やがててんびん座は滅びてしまったでしょう。

しかし、皆さんが、自分達が行なった事を反省し、今迄通りしっかりと仕事をするのなら、皆さんはてんびん座に戻る事ができます。

もし、誓う事ができなければ、再度ブラックホールに入ってもらいます。」

てんびん座の人々は、その言葉に驚いてすぎるような目で叫びます。

「もう2度と過ちは起こしませんので、助けてください。」

「私達が間違っていました、どうか許してください。」

彼等も、ブラックホールに戻り、悪夢のような日々を送る事だけは避けたいようです。

てんびん座の人々は、ブラックホールの中に長い間閉じ込められている間に、自分達が行った事がどれほど愚かな事であったか気づいたようです。

私は、ゴッデス・ダナ、ゴッデス・レイを呼び出し、彼らの感情を癒し、理性と叡智を取り戻させます。

そしてゴッデス・ダナの光によって彼等のDNAに光を送り、今まで以上にその能力を高め、彼らの判断力や真実を見極める力をより強くしていきます。  
またグレート・ブッダたちにもお願いして、彼らが再び理性を失い、自己中心的な行動を行わないように見守ってもらうことにしました。

### PART3 てんびん座の星々の再生

てんびん座のマスター達をブラックホールから救いだした私達は、カマリ星に戻りました。カマリ星では、私達の事を心配していた女王が、多くの人々を引き連れて戻ってきた私達の姿を見て神殿から走りだしてきます。

喜びの涙を浮かべ、王様のもとに駆け寄り、王様と抱き合っていて喜んでいます。

助け出された人々たちも、その王様と女王様の姿をみて、涙ぐんでいます。

彼らも暗黒の中で、恐怖と絶望にとらわれ、自分達がここに再び戻って来れるとは想像もしていなかったようです。

彼等も、このカマリの神殿に戻り、ようやく自分達がてんびん座に戻れたことを実感したのか、多くの人たちが、大地に崩れ落ちるようにして泣いています。

それぞれの星の人々同士で抱き合っていて泣いている人達もいます。

王様が、助け出された人々に声をかけます。

「皆さんが、ここに戻ってくる日を、私は長い間待ち望んでいました。

1日たりとも、皆さんの事を忘れた日はありませんでした。

たとえ皆さんが理性を失い、自分達の役目を見失ったとしても、皆さんは私達の大切な仲間であり家族です。

私も、そして女王も皆さんとともに、再びこのてんびん座で仕事をすることを望んでいます。

さあ、立ち上がり自分達の星に戻りましょう。」

王様と女王は、私達の前に跪き、私達に深く頭を下げます。

てんびん座の人達もその後ろに集まって、ともに頭を下げています。

私達は、王様と女王様を抱き起し、「あなた方が、仲間たちを思う気持ちが、私達を呼び寄せたのですから、これからも一緒に仕事をしましょう。」と語りかけます。

てんびん座の再生はこれからが本番です。

私達はまず、この神殿があるてんびん座の中心であるカマリ星から始めることにしました。

カマリ星の神殿の横に大きなマザー・クリスタルを作ります。

この星の地表のエネルギーを高めていくためです。

そして、カマリ星のクリスタル・ドームに入ると、そこにあるマザー・クリスタルと地表のクリスタルを、ユニバーサル・パレスの光とつなぎます。

とても強い光が、ユニバーサル・パレスとカマリ星をつなぎ光の柱ができてきます。

これで、カマリ星は、とてもパワフルな星へと変わっていきます。

さて次は、てんびん座の星々を一つずつ回るようになります。

私達は、助けたメンバー達をミサンガのシドレット号に乗せ、てんびん座の星々を再生するために、星をめぐることにしました。

私達がブラックホールに入る前から、てんびん座にはユニバーサル・パレスから、浄化の光を送っていたので、大分エネルギーがきれいになっています。

私達は最初に、カマリ星の左下にあるハクラビ星へと向かいます。

ブラックホールの中に閉じ込められていたグループの中では、最も人数が多かった星です。

星の地表は荒れ果て、荒廃しており、人も他の生物も見当たりません。

ハクラビ星の人々は大きいため息をついて言いました。

「私達が、道を誤ったために、自分達の星をこんなに荒廃させてしまった。

昔は多くの仲間たちと動物たちがいて、花も美しく咲き誇っていた星だったのに・・・

私達の家族や仲間たちの姿もない・・・

今は、見るすべもないくらいに荒れ果ててしまった・・・」

ハクラビ星の人達は、大地に膝き涙を流しています。

私達は、おそらく他の星も同じような状況であると思われるので、事前に魔法使いやマスター達に各星に向かってもらい、浄化と再生のエネルギーで星をきれいにしてもらいます。

私達は、ハクラビ星の地表にマザー・クリスタルを設置すると、地下のクリスタル・ドームに入りました。

地下のクリスタル・ドームを守る女神も元気がなく、弱っています。

私達は、クリスタル・ドームの女神とマザー・クリスタルに光を与えると、クリスタル・パレスの光をハクラビ星へとつないでいきます。

するとハクラビ星のクリスタルが美しく輝き、ハクラビ星の星が次元上昇していきます。

私は地上に戻り、ハクラビ星の自然を復興させるために、ゴールド・ボックスを開きます。

ゴールド・ボックスからは、美しい光が流れだし、ハクラビ星に美しい木立やの原、川や海



が戻ってきます。

植物が芽をだし、花を咲かせます。

小動物たちが木立の周りで戯れ、小鳥たちもさえずります。

その光景を見たハクラビ星の人は驚いて動くことも出来ません。

言葉を失いたただ佇んで星の変化を見ています。

そして、涙を流し始めます。

次元上昇したハクラビ星に、ホビットやハクラビ星の子供たちが戻ってきました。

ハクラビ星の再生が終わると、次にゲヌビ星に向かいます。

ゲヌビ星もほとんどハクラビ星と同じような状況です。

地表は荒れ果て、誰も住んでいる様子がありません。

星も冷たく活気がありません。

今先ほどまで、闇に包まれていた様子がわかります。

私達はハクラビ星と同じように、星の地表にマザー・クリスタルを作り、地下のクリスタル・ドームとともに、ユニバーサル・パレスの光とつなげます。

星が輝き始め、星に生命が満ち溢れてきます。

星が次元上昇を行うと、星の輝きが一段と強くなります。

私は、この星にもゴールド・ボックスを開き、自然を回復させてあげました。

ゲヌビ星の人達も大喜びです。

ゲヌビ星は、とても人が少なくなってしまったので、王様の指示で、カマリ星からもたくさんの人達が、ゲヌビ星を復興させるために応援にきてくれました。

皆さんで協力し合って、きっと素晴らしい星が出来上がる事でしょう。

#### PART4 てんびん座のフェアリーの星

私達は、ハクラビ星とゲヌビ星の間にある星に入るととても驚きました。

星の上で大きな争いがあったのでしょうか、森の木も枯れはて、動物たちの姿もなく、悲惨なくらい傷んでいるのです。

おそらくここは、フェアリー達やホビット達が住む自然豊かな星であったような気がします。この星の花々も、そして美しい森も川も、見るも無残に踏み荒らされているのです。

私は、急いでクリスタル・ドームに入り、女神と話をします。

「この星は、フェアリーやホビット、そして精霊たちが住む自然豊かな星でした。

彼らは、この星とともにあるがままに生きて楽しんでいました。

この星は静かな、木漏れ日のような光に満ち溢れた星でした。

ところが、今までとても協力的だったハクラビ星とケヌビ星の人たちが、突然私達の星の上で争いを起こしました。

今まで、あれほど優しく穏やかだった人たちが、まるで人が変わったように猛々しく振る舞い、花や植物を踏み荒らしていったのです。

精霊やフェアリー達は、恐ろしさのあまりこのクリスタル・ドームから他の次元へ逃げていきました。

ホビット達も地下の世界で隠れています。

彼らの争いは、ますます激しくなり、星の生命も大きなダメージを受けてしまいました。

そしてある時、この星を真っ暗な闇が襲ったのです。

そして、多くの人たちが闇の中で命を失い消えていきました。

その闇は、この星だけでなくてんびん座全体を飲み込み、星々の争いに終止符を打ちました。

それから、長い間、私達の星も闇に閉ざされていたのです。

クリスタル・ドームにも光が届かず、私の生命も弱り果て、もうこの星も終わりかな、と思っていました。」

クリスタル・ドームの女神が、目に涙を浮かべて私達を見つめます。

「私達は、星の生命と一つです。

私達の生命が消えていくと、この星の生命も消え、この星に住んでいる仲間たちの生命も消えていきます。

そのような思いの中で、私達は一縷の望みを求めて生きていたのです。

それが、突然、空が明るくなり太陽のような光が差し込み始めました。

私達は生きている・・・私達は生きていける・・・とその時に思ったのです。

星を覆っていた闇が、星から遠ざかるたびに、私達の心は軽くなり、新たな光に満たされました。

そして、あなた方がこの星に、生命の灯りを持ってやってきてくれたのです。」

私達は、クリスタル・ドームの女神にかけ言葉もなく彼女を見つめています。

でもこれから、星の再生が始まる事を女神は気づいたようです。

女神は涙をふき、きりっとした表情で、私に向かいます。

私は、クリスタル・ドームにあるマザー・クリスタルに、「生命のしずく」を入れ、クリスタルの活性を行います。

またメンバーにお願いして、地表にも大きなクリスタルを作ってもらいました。

この星は、マスターA 達にお願いして再生を手伝ってもらう事にしました。

マスターA 達は、私達から事情を聞くと、すぐに仕事に取り掛かってくれました。

彼等の宇宙船から発せられた青い光が、星をスキャンするように、上から下へとゆっくりと動いていきます。

青い光は、エネルギーの浄化の光です。

戦争や自然破壊によって、その星に残された破壊的なエネルギーや有毒なガスや物質を探し出して無害なものに変えていく働きをします。

青い光の後に黄色い光を送ります。

黄色い光は、浄化されずに残ったエネルギーや物質を中和させます。

そのあとは、赤い光です。

赤い光は、星の生命力を高め、自然治癒力を発揮させて星の生命力を高めていきます。

私達は、この星の上空に待機している、ユニバーサル・パレスの光とこの星をつないでいきます。

そして、マスターや魔法使いたちの力を借りて、この星の次元上昇に入ります。

星が少しずつ輝き始め次元上昇を始めます。

クリスタル・ドームのマザー・クリスタルの輝きも一段と強くなり、女神も喜びで体が震えているようです。

私達は、この星の次元を高め元の位置に戻すと、星の自然環境を豊にするために、巨人族のスティックス達とゴッデス・エオリアに手伝ってもらいます。

スティックス達の巨人族は、この星に海や河川を作り、自然豊かな地形を生み出すことができます。

またエオリアは、海や河川を作り出し水の生態系を整えることで、植物たちが育つ環境を整える頃ができる女神です。

女神は、地表に出てくると、とてもうれしそうに、星の姿がどんどん移り変わっていく様子を見えています。

私は、女神に声をかけます。

「この星にフェアリーやホビット達を、呼び戻しませんか。

きっと彼らは喜んで戻ってきますよ。」

女神も、大きくうなずくと瞳をキラキラと輝かせながら祈り始めます。

私は、このてんびん座を守護するおとめ座のマスターである女神アストレイヤーを呼び出します。

アストレイヤーは、かつてこの地球が「黄金時代」と呼ばれる光の時代から、地球で人類を見守ってきた女神の1人です。

その時代は、人も神も天使も同じ世界で仲良く暮らしていたといわれますが、時代が下って、地球人たちが墮落した時、多くの神々や天使たちが地球を去った後も、最後まで地球人を良い方向に導こうと努力していた女神です。

このてんびん座のてんびんは彼女の持ち物と言われ、人の心の良心と罪悪を秤にかけるためのものであるといわれています。

そして、てんびん座が、つかさどる「時と空間を生み出すための光」は、このおとめ座のマスターであるアストレイヤーたちによって生み出されているのです。

おとめ座はとても神聖な星で、その中心となっているスピカ星には、多くの白鳥とともにフェアリーや精霊たちがたくさん住んでいます。

このてんびん座からほかの星にフェアリー達が逃げて行ったとするならば、まずこのおとめ座のスピカ星に隠れているはずですよ。

アストレイヤーは、自分達にとっても、大切な役割を持つてんびん座が闇に飲み込まれ、その働きが止まってしまったことを大変気にしていたようです。

「私達は、てんびん座の人々が理性を失い荒れ狂ってしまったことをとても深く悲しんでいました。

私達も、このてんびん座の王様と女王様、そして上の次元にいるマスター達を通して、このてんびん座を守るために、癒しの光を送っていましたが、それもかなわずてんびん座は、闇の中に閉じ込められてしまいました。

私達は、あなた方がきっとこの星に来てくれるだろうと願っていました。

そして私達の星を助けてくれたように、この星々も再生してくると信じていました。

その日が、ついに来たことを私達はうれしく思います。

この星から逃げてきたフェアリーやホビット、そして多くの精霊たちも、この日が来ることをずっと祈り続けていたのです。」

アストレイヤーは後ろを振り返り、両手を大きく広げます。

そこに大きな光の通路が生まれたかと思うと、そこからたくさんのフェアリーやホビット達が、飛び出してきます。

中には、この星の女神の懐に飛び込んで泣き始めるフェアリーもいます。

フェアリー達、ホビット達、そして白鳥や精霊たちが、女神の周りを取り囲み嬉しそうに涙を流しています。

クリスタル・ドームのマザー・クリスタルからもたくさんのフェアリー達が出てきました。星の生命ともいえるマザー・クリスタルの中には、白鳥座のデネブ星とつながっている星もあります。

デネブ星は、フェアリー達の女王が住んでいる星で、この星から多くの星へ、フェアリーや精霊たちが、マザー・クリスタルを通して送られていくのです。

この星のマザー・クリスタルも白鳥座のデネブ星とつながっているらしく、動物や植物たちのお世話をするフェアリー達がたくさん出てきています。

フェアリー達がたくさん戻ってくるにつれて、星の自然も生き生きと輝いていきます。

私達は、その様子を見定めると安心して次の星へ向かうことにします。

## PART5 光のスピリット達の星

私達は、フェアリー達の星を後にして、もう一つの星へと入ります。

ゲヌビ星から、天秤の足元の方にある星です。

しかしこの星も荒れ果て、生命たちがいる様子がないので、私達はクリスタル・ドームに直接入ります。

クリスタル・ドームも陰りがあり、女神も力なくうずくまっています。

女神は、私達に語りかけてきます。

「この星は、てんびん座の中で培われた時と空間を生み出すエネルギーを定められた場所に送り出すための機能を持っていた星です。

天秤座の四角のエネルギーフィールドに蓄えられた光が、フェアリー達の星によって、相手の星のために適正なエネルギーに調整され、この星に送られます。

そして私達が、そのエネルギーを相手の星や必要な空間に照射していく働きを持っていました。

私達の中心的なメンバー達は、物質的な形を持たないスピリチュアルな光そのものです。

しかしながら、この星が心を操られたてんびん座の人たちによって踏み荒らされると、この星の次元も降下してしまい、光のスピリット達との間に次元の格差ができてしまいました。

そのため、スピリット達はこの星に入ることができなくなり、大切なエネルギーを他の星々に送る仕事ができなくなってしまったのです。」

私は、彼女が「心を操られたてんびん座の人達」といった言葉にハッとしました。

私は女神に尋ねます。

「てんびん座の人々が心を操られたということは、だれかがてんびん座にやってきて、彼らの心をコントロールしたのですか？」

女神は、私の目を見てイメージを送ってきます。

そこには、ほかの星座から来た爬虫類のような顔をした存在が、てんびん座に降り立ち、てんびん座の人々に乗り移って暴れているような様子が映し出されます。

私は、このてんびん座で起こった事を理解しました。

それはヘラクレス座やケンタウルス座などの星で起こった事とよく似ています。

叡智ある存在達の自己中心的な心、傲慢な心、他人を支配したいと思う心などに付け込んでくるダークピープルと呼ばれている者達の仕業のようです。

私は彼女に尋ねました。

「今でも、彼らは星に残っているのですか？」

彼女は私に答えます。

「今はもういないみたいです。

この星が暗闇に包まれて、多くの生命たちが息絶えるとともに、この星座を出て行ったようです。」

私は、そのことを確認した後に、この星に光を呼び込み星の次元上昇に入ります

クリスタル・ドームの中にあるクリスタルを活性化した後に、この星の地表に、新たなマザー・クリスタルを設置すると、私達のユニバーサル・パレスを呼び、星に光をあたえ次元上昇を行っていきます。

星の次元が上がるたびに、この星に輝きが戻ってきました。

先ほどのフェアリーの星からも、女神とフェアリーが、この星に光を送り、次元上昇を助けているのが分かります。

この星の女神の心にも、力強い光が届いているようです。

私は、グレート・ゴッデス達にも光を送ってもらい、差ならぬ次元上昇をおねがいします。

ユニバーサル魔法使いも、さらに神聖幾何学を描き、星にパワーを送ります。

私も星の地表に移り、この星にもフェアリー達を呼び寄せ、星の植物たちを元気にしてもらいます。

この星は、他の星に比べて大きな被害はなそうですから、自然界を再生する女神エオリアにお願いして星をきれいにしてもらいます。

すると、この星に美しい光のスピリット達がたくさん降り立ってきます。

この美しい光が、この星の大切な住人なのですね。  
遥さん達が嬉しそうに光と戯れています。  
これらが戻ってきてくれたら、この星もさらにいっそう輝いてきました。

## PART6 てんびん座の創造主と地球の多次元

私達は、続けててんびん座全体の次元上昇に入ります。  
私達のマスターや騎士団、魔法使いがそれぞれの星に分かれ、各星のマザー・クリスタルを  
パワーアップさせていきます。

そして天の川銀河を含むこの宇宙を統括する偉大な創造主やマスター達の名前を呼び、てん  
びん座全体に、星座の次元上昇のための神聖幾何学を描いてもらい、光を送ってもらいます。  
ユニバーサル・パレスもてんびん座を見下ろす位置から、てんびん座全体に大きな光を起こ  
っています。

てんびん座の星達が同じように輝き始めました。  
それぞれの星が、他の星々を求めあうように、星の光をつなぎ、星と星の間を強く結びつけ  
ていきます。  
星々の意識が、一つにつながり、お互いを癒し、お互いを愛し、お互いを高めあっています。  
やがて星々が、一つになって大きく動き始めます。

ユニバーサル・パレスから放たれた光と創造主達の導きの光によって、てんびん座全体がさ  
らに高い次元へと上がっていきます。  
星の輝きが、さらに高まり純粋な光と変わっていきます。  
すると、てんびん座の中心に新しい次元の世界が現れてきました。  
おそらく、このてんびん座を統括する創造主の次元ではないかと思われれます。  
この創造主の次元とてんびん座の各星々を強くつなげていきます。

新たに生まれた次元の光の中から、てんびん座の創造主が現れます。  
彼はとてもうれしそうに私達を見つめ語ります。

「私達は、長い間、あなた方が来ることを待っていました。  
あなた方が、おとめ座やしし座、おとめ座、そしてケンタウルス座を助けてくださった様子  
を見て、きっと私達のもとにも来てくださることを待ち望んでいました。  
そして、その日が、やっと来ました。

てんびん座にとって、この日は記念すべき再出発の日です。  
私達は一度、自らの過ちにより、てんびん座の働きを失ってしまいました。  
しかし、今日再び、私達は、てんびん座を取り戻し、私達の仕事を再開することができます。  
それは多いなる喜びであり奇跡です。」

創造主がそのように語ると、私達の後ろで、てんびん座の多くの人達が涙を流しています。  
お互い抱き合ったり、握手をしたりして喜んでいきます。

てんびん座の創造主は、続けて語ります。

「私達の最初の仕事は、地球のパラレルワールドを生み出し、そして再統合を手伝うことで  
す。

地球に新たな空間と時間の次元を生み出し、現在と異なる次元の地球が生まれ出ることを可能とします。

地球を守護するマスター達は、このてんびん座の復活を待ち望んでいました。

そして宇宙の偉大なるマスター達も、地球がしっかりと多次元世界へ移り変わり、さらに統合されることで、

その影響が他の星々にまで及ぶことを理解しています。

私達の送るエネルギーによって、地球は安全に、そして確実にいくつもの次元に分かれ、そして再統合を行うことができます。

もし皆さんが、このてんびん座の再生を行っていないならば、地球はとても不安定な中で多次元に分かれていかなければならなかった事でしょう。

そしてそれはとても大きな危険性をはらんでいます。

私達は、これから必要なときに必要なだけ、地球が多次元の世界に分かれる時も、また地球が再統合される時も光を送ることにしましょう。」

てんびん座の創造主の喜びの声に、私達までうれしくなりました。

そしてこの天の川銀河の星座達が、様々な役割を担い活躍していることに驚いているのです。

天の川銀河の時と空間を作り出す光は、おとめ座や牛飼い座、大熊座そしてしし座などによって生み出され、天の川銀河を潤します。

そしてさらに、てんびん座によって、このエネルギーが特に必要とされている星々にもたらされるものです。

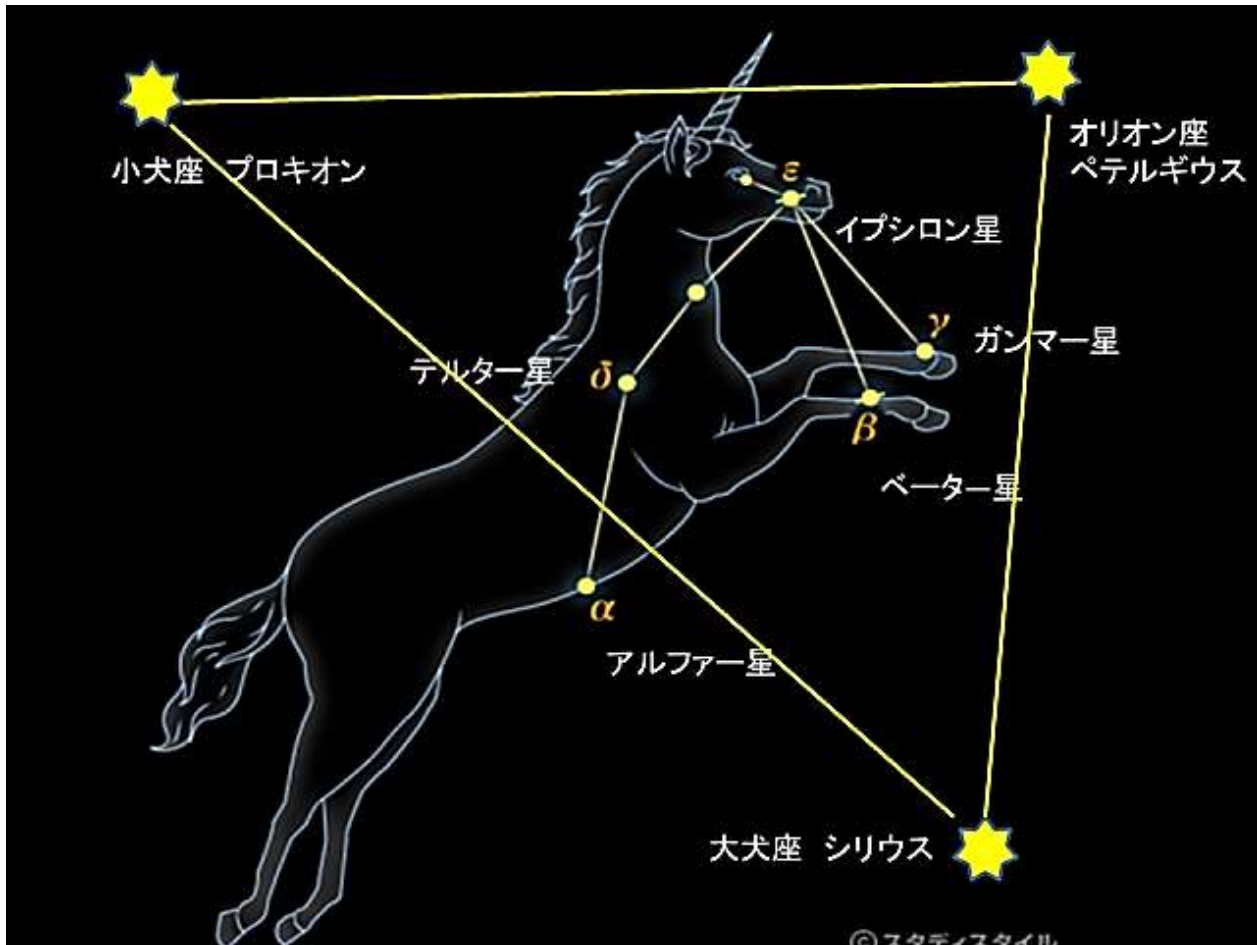
これで地球が多次元に移り変わっていく為の準備が大きく進むこととなりました。

私達は、地球人のスピリチュアルな遺伝子を活性化するためのゴッデス・レイとゴッデス・ダナの光。



地球と人類をライト・ボディに変容していく為の大犬座の光  
地球が多次元世界へと移り変わっていく為の時間と空間を提供するてんびん座の働き  
そして、この宇宙を一つに統合していく為の神殿、ユニバーサル・パレス  
私達が今回の旅で得たものは、これからこの地球と人類を大きく成長させていく為の重要な  
物ばかりです。

## 第10章 未来を創造する一角獣座



### PART1 未来の時間を作り出す一角獣座の謎

この一角獣座の事を知っている方は本当に少ないと思います。

黄道12星座にはいつているわけでもなく、また目立つ星も一つもありません。

大犬座のシリウス星、オリオン座のペテルギウス、小犬座のプロキオンと冬の大三角形を形成する星々の光にうずもれています。

しかし、この星座が冬の大三角形の中心に位置しているということは、大変大きな意味があることが、私達に知らされました。

その日は、寛子さんとの個人アチューメントでしたが、私達は、女神から一角獣座に行くように言われました。

一角獣座は、本当に目立たない星なのですが、ユニコーンの星だけにとっても気になっていた星座です。

私達はその中心となるイプシロン星に入ることにしました。

イプシロン星は、静かで荒涼とした感じがする星です。

星の地表には動くものの姿も見えません。

私達クリスタルはドームに入り女神を探します。

クリスタル・ドームの片隅にポツンと一人で座っている女神がいます。

私は、女神に声をかけ、この星の事を聞きます。

「この一角獣座は、星々の再生と創造を助け、星々が未来へと続くための光を放射している場所です。

星々にとって必要な未来の時間、未来の次元を作り出し、星々の成長と発展を支える事がこの一角獣座の仕事なのです。

プロキオン星、シリウス星、ペテルギウス星によって作られる特別な星々のエネルギーは、未来の時間を生みだします。

その光を、目的とする星に合わせて光を調節して送ることが私達の仕事でした。」

女神は悲しみの中にうちひしがれています。

私はシリウス星を守護する女神アテネを呼び出しました。

アテナは私達に、一角獣座の星々のバランスが崩れてしまい、エネルギーがきちんと循環していない事。

未来を作り出すエネルギーがないと星々の未来に問題が起きてくる事を教えてくれました。

そして、マスター達が、もうすでにこの星にいないので、マスター達とこの一角獣座の大切なものを探しに行ってもらいたい事を伝えてきました。

私達は、フェニックス号を呼び寄せ、一角獣座の中心にあるブラックホールの中に入ってきました。

今までは、私達がブラックホールの中をあちらこちらと探し回っていたのですが、このフェニックス号には、ブラックホール探索用のレーダーがついています。

レーダーを作動すると、ブラックホールの中の数か所に反応が現れますので、その場所に騎士団を派遣します。

騎士団は、フェニックス号の船長の指示で、すぐに一角獣座のマスター達を見つけることができましたようです。

それぞれ、数名のマスターを連れて船に戻ってきます。

私は、その中でもリーダー格の男性と、一角獣座の事について話しをします。

「この一角獣座が、星々の未来を創るという大切な働きが、できなくなったことに対して、私達は大変申し訳なく思っています。

私達は一角獣座のそれぞれの星で平和に暮らし、シリウス星やペテルギウス星などによって生み出される大きなエネルギーを調整し、未来を生み出すエネルギーを作り出す仕事をしていました。

ところが、私達の星々に、今までに体験したこともないエネルギーが入り込んできたのです。星々の人達は、ネガティブで自己中心的な気持ちにとらわれ、自分達の大切な仕事に、そのような感情のエネルギーが混じるようになってきたのです。

そのために、各星々でつくっていたエネルギーが、本来の物とは異なるエネルギーとなりバランスを崩してしまいました。

それらのエネルギーはすべてイプシロン星に集まる事になっていましたので、イプシロン星は、それらのエネルギーの大きなひずみに耐えることができず、崩壊してしまっただけです。私達はその後、暗い闇にとらわれ、今まで悲しみと後悔の中で、長い間過ごしてきました。」

私達は、フェニックス号でいったんイプシロン星に戻ります。

先ほどまで、孤独で絶望感に満ちあふれていたクリスタル・ドームの女神が、輝くばかりの笑顔で私達を迎えてくれます。

私達は、一角獣座のマスターをまずイプシロン星におろし、一角獣座の次元上昇を行います。ユニバーサル・パレスを、一角獣座の上空に持ってきて、次元上昇のための光を送ります。ユニバーサル・パレスの光が、暗く沈んだ一角獣座を照らし出すと、星々に光と活気がよみがえってきます。

そしてシリウス星の女神アテナ、ペテルギウス星の創造主、プロキオン星のマスターにお願いして、一角獣座に光をつないでもらいます。

この3つの星で作出す3角形のフィールドに美しい光があふれてきます。

ペテルギウスからは赤い光、シリウスからは白い光や青い光、プロキオン星から黄色い光がフィールドの中に流れ込み、様々な色の光を作り出していきます。

するとその上の次元から、この3角形の光のフィールドと一角獣座を統合するマスターが現れました。

彼は、星々の未来を司るマスターのようですので、私は「マスター・フューチャー（未来）」という名前と呼ばせていただくことにしました。

彼は、私達を見るととても喜んでくれています。

「あなた方が来てくれることを、私はずっと待っていました。

私達は、てんびん座と共に協力し合って、星々の未来を作り出します。

てんびん座があなた方の力によって元に戻った時に、次は私達のもとに来てくれる事を確信していました。

あなた方の働きによって、この一角獣座も元に戻り、素晴らしい働きをすることができます。

あなた方に、もう少しお願いがあります。

あなた方の働きにより、この天の川銀河もさらに高い次元へと移り変わってきました。

そして生まれてくる次元や世界もさらに高度で素晴らしい世界となってきました。

それらの世界に素晴らしい未来を作り出すために、一角獣座のシステムをより高次なものとしてください。

そして、てんびん座の光とここを繋いでください、

どうかよろしくお願いします。」

## PART2 一角獣座の未来を作り出すシステムの再稼働

私達は、マスター・フューチャーのハートと私達のハートを光でつなぐと次の仕事に取り掛かりました。

最初に行うことは、一角獣座の各星々にマスターを戻し、今までのマザー・クリスタルを新しいマザー・クリスタルに変更することです。

今までのマザー・クリスタルは、エネルギーのひずみによってだいぶ破損しているようですので、さらに高次元のマザー・クリスタルへと変更していきます。

最初に行ったイプシロン星のマザー・クリスタルは、きれいな六角柱をしており、機械のシステムとつながっているようです。

新しいマザー・クリスタルは、今までのクリスタルよりも一回り大きく輝いています。

イプシロン星のマザー・クリスタルの交換が終わるとフェニックス号は、一角獣座のマスター達を乗せ、それぞれの星に向かいました。

そして、宇宙工学に詳しいメンバーたちに来てもらい、一角獣座のシステムについて相談することにしました。

マスターA、大熊座のマスター、そしてユニバーサル・パレスの最高評議会からもマスターを派遣してもらい、今まで以上に高い機能を持ち、宇宙船も自由に過去と未来に行けるようなシステムを作る作業を行ってまいります。

これは、このユニバースの時間のMAP（地図）を管理する仕事にもなるようです。

私は、イプシロン星の事が気になってマスターAに尋ねます。

「イプシロン星は、自然の星ではなく人工的な星ですか？」

マスターAは、いまさら何を聞いているのですか、という顔をして

「もちろんそうです、未来の時間を作り出すための、この宇宙最大のシステムですよ」

確かに、聞くまでもなくそうです。

他の4つの星も、半ば人工的な星のようです。

続けてマスターAが、私に言いました。

「このシステムを稼働させるためには、人手が足りないようです。

それも今まで以上に優秀なメンバーたちが数多く必要です。

新人種をお願いできませんか？」

私は、すぐに新人種を作り出す準備に入りました。

宇宙工学に詳しく、星々の未来を管理するにふさわしいメンバーたちを作り出す必要がります。

私は、このフィールドを統括するゴッデス・フューチャー、星や星に住む種族の運命を司るゴッデス・オリジン、宇宙工学に詳しいマスターA をお願いして、それぞれの遺伝子を持つ新人種を生みだすことにしました。

グレート・ゴッデス達をお願いして新しい種族を生みだす準備をしてもらいます。

グレート・マリアージュが中心になって、新たな種族を生みだすための光が降りてきて、マスター達を光でつつみます。

光の中で、フラッシュの様にいくつもの光がきらめきます。

やがて、その中心から人影が立ちあがります。

最初は一つ、続いて数名の人々が生れてきます。

背が高く、白い光をまとった聡明な新人種が生れてきます。

マスター達もその光景を満足げに眺めています。

しばらくして、新しいシステムについて話がまとまったようです。

マスター達は、新しく生まれた新人種と共に、イプシロン星の未来を創造するシステムのバージョンアップにかかります。

そして、イプシロン星の仕事が終わると、他の星々にも分かれてそれぞれの星のシステムを変更していくようです。

私達はその間に、これらの星を見てまわっています。

やがて、システムのバージョンアップが終了したようです。

私達は、一角獣座全体に光を送り、一角獣座の次元上昇を行うとともにシステムの稼働を行います。

すると、各星々の近くに、手にクリスタルを持ったドラゴン達が現れてきました。

そのクリスタルが、星の未来を形作るエネルギーと関係しているようです。

私達は、そのドラゴンと共に、一角獣座の上の次元にはいります。  
そこには、さらに巨大なドラゴンがいて、この一角獣座とてんびん座をつなぐ役割をしてくるようです。  
私達は早速、そのドラゴンと共に、てんびん座へと向かいました。

### PART3 時と空間を守護するドラゴン

てんびん座では、ズベン・エス・カマリ星で、てんびん座の王様と女王様が待っていてくれました。  
星々にもマスターが戻り、てんびん座の働きも復興しつつあります。  
今回は、一角獣座がもとに戻り、さらに高次の働きをおこなえるようになったために、このてんびん座も一角獣座にあわせて再度調整する必要があるようです。

マスターA や大熊座のマスター達が、一角獣座で生み出した新人種を伴って各星々へと向かいます。  
私達はその間に、てんびん座の王様達を伴って、先ほどのドラゴンの次元に上がっていきます。  
このてんびん座の上にも、時間を創造するためのドラゴン達が数頭待っています。

しかし、まだ小さくてパワーが足りないようです。  
ユニバーサル・パレスの光を、てんびん座の上空から、放射していきます。  
するとドラゴン達が光輝きどんどんパワーアップしていきます。  
ドラゴン達の手にしたクリスタルが、さらに輝き大きくなります。

ドラゴン達の光にあわせて、てんびん座もエネルギーが高まり次元が上がっていくようです。  
私達は、ドラゴン達に連れられて、さらに高い次元へと登っていきます。  
そこには、たくさんの巨大なドラゴン達が待っています。

ここのドラゴン達は、時間と空間を守護することを専門とする特殊なドラゴン達のようなようです。  
マルチバースの最高次元にいる「神聖なドラゴン」の仲間のようなようです。

ドラゴンのリーダーが私に話しかけます。  
「あなた方にお会いできたことを、うれしく思います。  
私達は、時間と空間を創造するためのドラゴンです。  
様々な星や次元が生まれ出て、成長していく事を助けています。  
私達は、皆さんに、私達のような存在がいる事を知ってもらいたいのです。

そしてお願いがあります。

皆さんの活動のお蔭で、星々の輝きが高まり、新たな次元や世界がどんどん生まれていきます。

それはこの宇宙が成長していく為に必要なことであり、とても喜ばしいことです。

しかし、その新しい次元の時と空間を支えるためのドラゴン達の数足りないのです。

どうか、私達の種族を増やしてください。」

私達は、この宇宙の空間と時間を守護するドラゴンに会えただけでも胸がいっぱいなのに、さらに新しいドラゴンの種族をうみだすことまでお願いされてしまいました。

私は、多次元宇宙の最高次元に君臨する「神聖なドラゴン」を呼び出して、新しい種族を作ることをお願いしました。

「神聖なるドラゴン」は、喜んで新種族を生みだすお手伝いをしたいのだから、新しい種族を生みだすためにはもう一つ別の種族が必要であると伝えてきます。

私は、しばらく考えて「神聖なる大天使」を呼び出します。

この宇宙に生きる存在達を守り守護してくれる天使たちの最高次元のマスターです。

「神聖なるドラゴン」と「神聖なる大天使」たちの遺伝子を持つドラゴンですから、時と空間を守護するだけでなく、その中に生きる存在達にもきっと光を与えてくれることでしょう。

グレート・ゴッデス達から、新種族誕生のための一筋の光が放たれ、私と神聖なるドラゴン、神聖なる大天使を包みます。

光りの輪がどんどん大きくなり輝いていきます、私達の上空で光が大きくスパークすると、天使の羽をもった巨大なドラゴンが、稲光と共に現れます。

時と空間を守護する「エンジェル・ドラゴン」の誕生です。

そしてさらに光の中から、たくさんのエンジェル・ドラゴン達が、羽を大きく広げ飛び出してきます。

私達は、この次元をさらに強化するために、フェニックス号から最大クラスのホーリークリスタルをこの次元におろしていきます。

てんびん座で、新しい時と空間を作るシステムを調整していたマスターA 達からも仕事が終了したとの連絡がありました。

てんびん座と一角獣座がしっかりとつなぐれ、新しい未来を生みだすシステムが完成したようです。



そして、時と空間を守護するドラゴン達も活性化し、新たなエンジェル・ドラゴン達もたくさん生まれてきました。

これで、私達が活躍するユニバース（単一宇宙）にも、新たな星々や次元がたくさん生まれて、さらに成長し発展していく事でしょう。

\*未来を創造する一角獣座のパートのみ、フェニックス号が作られた後に行った旅のレポートです。

2014年6月25日      瀬戸 武志

## 宇宙で活躍する神々や創造主の段階

### 宇宙で活躍する神々や創造主の段階

青字は天使

地球	マザーガイア、 天照大御神などの世界中で活躍する神々（スターピープル） サナートクマラ、サナンダなどのマスター 人間を守る守護天使
太陽系	アメンラー、ゼウス、ポセイドンなどの創造神 大天使
天の川銀河の小創造主	天の川銀河の各星座を担当する小創造主 ペテルギウス、北極星、南十字星、レグルス星、スピカ星等 天の川銀河の大天使
天の川銀河を統治する中創造主	アディテーヤ 仏陀 アリターリア
局部銀河を統治する中創造主	イエス アールスター アリアドーネ 宇宙の魔法使い エルシーダ シバ オニキス ユニバーサル・エンジェル
	グレートイエス グレートマリア
物理世界を創造する創造主	ブラフマン 界王 グレート・スター
ユニバース（単一宇宙）の創造主	グレート・ユニバース グレート・キング グレートマザー グレートエンジェル

特殊な創造主	ゴールドルシファー 宇宙の大地のマスター ホーリーエンジェル
マルチバースの創造主	セントラル・サン&ムーン ゴッデス・オリジン ゴッデス・ユニティ
愛の源の世界	愛の源の世界のマザー エンソフ アメンラー ウイング
高次の物理世界の創造主	セントラルレース セントラルイエス&マリア クリスタルレース デバインマスター
	永遠なる愛の女神 黄金の女神 宇宙の意志 ダイヤモンドの女神
12 神殿に関わる創造主	鳳凰族の創造主 ソフィア族の創造主
	無の創造主 祝福の創造主 太陽種族の創造主
物理世界の系列を表す創造主	輝きの創造主 光と闇の統合の創造主 至高なる愛の創造主 永遠なる時の創造主

## ★物理世界を持つ宇宙

### ○第1レベル 天の川銀河の中の創造主

階層としては一番下の階層の創造主です。主に星々や星座の働きを保ち、星に存在する生命達を生みだします。

彼等は星座の創造主とも呼ばれています。

その上には、天の川銀河全体の管理と創造を行う創造主もいます。

## ○第2レベル 局部銀河の創造主

私達にとって観測可能な宇宙（ユニバース）の中でも、天の川銀河やアンドロメダ銀河を含む局部銀河が一つの宇宙の単位となっています。

この局部銀河を治める最高の創造主は、私達が「界王」呼んでいる創造主で彼のもとに多くの創造主が役割を分担して存在しています。

私は、局部銀河の運営にたずさわる創造主を「グレートゴッデス」と呼んでいます。

特にグレート・イエスやグレート・マリアは地球の事をとても大切にしてくれています。

## ○第3レベル 観測可能なユニバースを統治する創造主

物理的な世界を持つ宇宙（ユニバース）を直接統治する創造主達です。

主に第4レベルの創造主に対応する創造主達がいて、第4レベルの創造主の指示のもとに単一宇宙であるユニバースを運営しています。

## ○第4レベル 多次元宇宙を統治する創造主

観測可能な宇宙だけでなくパラレルワールドも含む多次元宇宙を統治する創造主達の世界です。

そのリーダーは、エンソフと呼ばれる創造主です。彼のもとに、星々を創造する創造主、人々の運命を司る創造主、宇宙の安定を保つ創造主、ドラゴンや精霊を生み育てる創造主、4大エレメントを駆使して宇宙を創造する源のエネルギーを作る創造主、叡智ある存在が適正に育っているか調べる創造主などが存在して、多次元宇宙の創造と運営を行っています。

## ★スピリチュアルな宇宙

### ○第5レベル 物理的な宇宙を創造し運営する創造主

このレベルの創造主からは、たくさんの階層と役目を持った創造主が存在します。

物理的な宇宙を創造し運営する役目を持ち、私達の物理世界にも関われる創造主達です。

第1評議会の中心的な創造主達になります。

リーダーは、「源の創造主」「光彩の創造主」で宇宙のスーパーコンピューターを管理する創造主なども含まれます。

### ○第6レベル 物理的な宇宙を管理しスピリチュアルな宇宙を創造する創造主

主に第2評議会、第3評議会の創造主達で、上位の評議会の創造主の指示のもとにスピリチュアルなレベルでも宇宙を創造していきます。

彼等は、上位の評議会の決定を自分達の評議会で議論し、どのような方法で宇宙の創造と運営を実行するか決めて行動します。

### ○第7レベル スピリチュアルな宇宙を創造する創造主

主に第4評議会の創造主で、物理的な宇宙の元となるスピリチュアルな宇宙を作ります。この宇宙の原型を基に、第3評議会と第2評議会の創造主やスターピープル達がスピリチュアルな宇宙の細かい創造を行います。彼等は、マルチな能力を持つ創造主で1人1人が独立して、自由に宇宙の創造を行う権利が与えられています。

### ○第8レベル 創造された宇宙の管理を行う創造主

第5評議会以上の創造主達は、宇宙の創造は行いませんが、彼等よりも下の評議会の創造主が作った宇宙が適切に運営されているかどうかの検査を行っています。非常に高い能力を持っている事はもちろんですが、どの次元にも自由に入る事ができ、多くの宇宙を見守っている創造主です。

### ○第9レベル いくつもの宇宙を管理する創造主

第9評議会以上の創造主達は、私達の宇宙以外にもいくつもの宇宙に関わり創造や管理を行うようになります。